

# 加古川グリーンシティ防災会

普段の生活に防災を取り入れた生活防災

# 防災クラウド



## はじめに

加古川グリーンシティ防災会は、平成7年の阪神淡路大震災の教訓に基づき、私たち自身、あるいは社会自体がもっている、災害に対処できる能力「社会の防災力」に視点を置き研究し活動してきました。

近年、加古川では都市化が進み街の規模が大きくなってきました。それにより多くの人が密集して、相互に依存しながら暮らすようになってきました。その結果、災害に対して脆弱性を持つようになってきました。その脆弱性は加速する都市化の中で、都市機能の歯車がほんの少しでも狂うと、住民すべてが影響を受け、被害の拡大を招くことになるのです。

そこで、災害に対する社会の脆弱性をどのように減らすかと言うことも必要ではあるのですが、災害に対処する能力をどれだけ向上できるかを考える方がより積極的で建設的であることに気がきました。その災害に対処する能力の向上をするために色々な仕掛けを幅広い世代にわかりやすく「楽しさ」を加えながら独自の防災活動を行ってきました。その対処能力向上のひとつのキーワード「情報伝達」があると考えました。

阪神淡路大震災の教訓のひとつに、被災後、被災者はたくさんの情報を必要としました。その情報は「生活情報」と言うもので、どこに行けば、どのような支援が受けられるのか、自分の求めているサービスはどこに行けば受けられるのか等、災害のニュースではなく、自分たちの身近な生活情報だったのです。これは限られた人しか関心を持たない、身の回りの細かな情報です。マスコミ等では取り上げにくい情報ですが、被災者が本当に欲している情報とはこのような生活情報だと気がきました。しかし、それら情報伝達システムは被災後すぐに構築できるものではありません。日頃の生活の中で育み使えるようにしておかなければなりません。

そこで、加古川グリーンシティ防災会では、阪神淡路大震災以降発生した数々の災害から得た教訓をもとに活動し研究を重ねてきました。その結果、自主防災組織が行う防災とは「自分の大切な人を守ること」が根幹にあるひとつの答えだと考えました。その大切な人を守るために何をすれば良いのかを考えたとき、ひとりで防災活動をするのではなく、一人でも多くの人が協力し合うことが大切であり、有効な手段であると判りました。その為には「情報」を共有することが大切で、その情報はお互いに発信し合い受信し合うことが重要であると考えました。そこで加古川グリーンシティ防災会では、グリーンシティの中はもとより、より多くの地域の人たちと情報を交換し共有することでお互いに防災スキルを高める。これが「自分の大切な人を守ること」になると確信したのです。また、それら情報の受発信に「楽しく」というキーワードをスパイスにすることで継続し運用が可能になることが判りました。この「防災情報伝達システム」は被災後すぐに構築できるものではありません。日頃の生活の中で育み使えるようにしておく必要があります。それが普段の生活の中に防災を組み込んだ「生活防災情報伝達システム」であり、防災活動に必要な情報をみんなで共有し育むことが『**防災クラウド**』と言うものなのです。

## 事例の内容

### 経緯

加古川グリーンシティ防災会では、平成7年の阪神淡路大震災後にクローズアップされた「マンションの災害対策」に徹底的に取り組みました。

マンションはプライバシーが守られる反面、ご近所付き合いが薄いのが最大の問題です。この問題を如何に解決し、どうすれば仲間を増やし、みんなが防災活動に取り組むことができるようになるかを考えました。

楽しくなければ防災の輪は広がらない「楽しく防災活動をやろう」というテーマで、住民の方々に対し多彩なアイデアを仕掛けたことで乗り越え、仲間づくりをすることに大成功しました。

### 仲間づくりが私たちの防災戦略

「防災活動」は社会的に必要な活動であるとわかっていても、「防災」という固い漢字2文字から難しく考えすぎ、活動に一步足を踏み入れにくく人が集まりにくいという難点があります。「防災」とは、人と人とのつながりがあつての「防災」です。難しい顔で講演会を開き、「拝聴します」というような活動をして、おそらくそこからは何も生まれないのではないのでしょうか。現実に素晴らしい防災学や防災研究がありますが、それらがそのまま地域防災や自主防災には決してならないのです。なぜならば、防災の主役は我々一般市民だからです。その人たちの心根に強く訴えなければ何も変わらないし、何ものも生まれてこないのです。

要するにみんなが楽しく心の底からワクワクするようなものを提供する。そこから我々が追い求める地域コミュニティ、地域防災、自主防災力などが生まれ育っていくのです。そこで私たちは「防災」という言葉を前面に出さず、堅苦しくならないように行事を行ない、参加者が「知らず知らずのうちに防災に関わってしまった」と感じるようにし、強いまちづくり、仲間づくりをすることに大成功しました。これが私たちの考える防災戦略です。

### セールスポイント（特徴）

決められた人だけが、決められたことだけを行うものではなく、みんなで楽しく活動できるシステムを心掛けました。ひとりの人の持つ情報はほんの少しでしかないのですが、多くの人が集まり情報を共有することで大きなシンクタンクを日頃から、みんなで創り上げる「生活防災情報システム」を目指しました。この「生活防災情報システム」は、『防災クラウド』とも言えるシステムです。今までは、地域単位または個人単位の防災活動に必要なハードウェア、ソフトウェア、データなどを、個々に保有し管理し活動に使用していたのに対し、『防災クラウド』では、自分の大切な人を守るために必要な情報を共有することで、自然とみんなでみんなを守ることでできるシステムを構築でき、その結果、自分自身で自分の大切な人を守ることができれば、素晴らしく災害に強いまちができあがることになるように考えました。

## 概要

マンション7棟・584世帯の全住民（約2,000人）が参加する防災組織。広報誌やコミュニティ放送等の情報提供設備を構築、住民参加型の防災活動行事など、子供から大人まで参加した多彩な取組、連絡体制の整備や防災井戸設置など地域防災力の向上、防災意識の普及活動を行う。

## 沿革

加古川グリーンシティに入居した住民は管理組合を結成、自衛消防隊を組織し消防計画を作成し消火器等消防設備の点検を行った。また後に管理組合内に防犯委員会を設け、迷惑駐車を取り締まりや青少年健全育成のための数かずの方策を実行。夜回り巡回も行い安全で安心な団地生活を目指した。阪神・淡路大震災を受けて「防災会」の誕生は、1995年1月17日の阪神・淡路大震災がきっかけとなっている。この大震災で兵庫県は大打撃受け、加古川市も死者2名、半壊家屋13棟の被害を出した。「ボランティア元年」と言われた被災後の救援や復旧活動におけるボランティアの高まりを受けた兵庫県では、災害ボランティア支援方針のもと県下に自主防災組織の結成を呼びかけた。加古川グリーンシティ管理組合もこの呼びかけに応え、それまでの自衛消防隊を編入した防災会を設立したのは1998年6月のことである。

## 加古川グリーンシティ紹介

加古川駅で降りてJRの高架線沿いに東へ徒歩10分という近距離に、14階建てを中心とした7棟の高層住宅群（管理棟は別に1棟）がそびえ立つ。南側には国道2号、北側にはJR山陽本線が走る。行政機関、公共施設、各種医療施設、幼小中高など各種学校園にも近く、加古川市役所まで徒歩約10分、近隣には多くの医療施設もあり、兵庫県立加古川病院へは徒歩20分、加古川市立氷丘南小学校・加古川市立氷丘南幼稚園へは徒歩約15分、加古川市立氷丘中学校へは徒歩約20分、また駅周辺の商業エリアにも近く、大手百貨店のヤマトヤシキや駅前ベルデモールなど気軽にショッピングが楽しめる。この高層住宅群が開発されたのは1983年（昭和58年）11月、当時は国鉄（現JR西日本）高砂線がすぐ前を走っていたが、すでに2年前に廃止は決まっており、翌1984年12月1日を持って同線は廃止され、線路跡は鶴林新道という市の道路となった。加古川グリーンシティと名付けられたこの住宅団地最初の棟が完成したのは1985年6月、翌1986年までには、ほぼ現在の棟むねが完成し入居が開始される。これは加古川市内では初期に属する団地である。現在は法人格を取得し「団地管理組合法人加古川グリーンシティ」と称する。

## 受賞歴

- 2003年1月 兵庫県優良自主防災組織表彰受賞
- 2006年3月 総務省消防庁「第10回防災まちづくり大賞 総務大臣賞」受賞
- 2006年9月 平成18年度「防災功労者 内閣総理大臣表彰」受賞
- 2007年5月 第61回「神戸新聞平和賞・社会賞受賞」受賞
- 2007年6月 第9回「日本水大賞・厚生労働大臣賞」受賞
- 2010年6月 加古川市制60周年特別表彰受賞
- 2011年1月 第15回 防災まちづくり大賞 防災情報部門 消防庁長官賞 受賞
- 2011年1月 第1回 防災ラジオドラマコンテスト 審査委員会特別賞 受賞

## グリーンシティ防災会が取り組んだソフト面とハード面の事業

### 【防災ソフト面での事業】

1. 「防災ショットバー」地元FMラジオ局で楽しくお酒を呑みながら防災番組放送
2. 「大地震トライアクト」地元FMラジオ放送コラボの防災放送の制作協力
3. 「防災インターネットラジオ」による防災啓発と遠隔地との通信体制の構築
4. 「地震発生時対応マニュアル」自主防災組織の災害発生時、本部構築運営マニュアル
5. 「非常持ち出し本・D I B」自分の大切な人を守るためのバイブルとして刊行
6. 「防災を学ぶ会」災害時の連絡体制構築や支援協力について考える会の発足
7. 「防災知識の共有」防災講演を各地で開催し、防災知識の共有と防災意識の向上
8. 「グリーンだより」毎月発行の広報誌による住民防災意識の高揚
9. 「帰宅支援サポーター」帰宅難民にならないための行動指針開発
10. 「安否確認プログラム・S P C（スコープ Safety Confirming Program）」災害発生時の確かな安否確認の為のシステム開発
11. 「町内チャンピオンマップ」（自分の持っている特技の登録制度）
12. 「ひと声かけて」（災害時にひと声掛けてください）登録制度
13. 「あんしんカード・R E C（レック・Record）」あんしん情報登録制度
14. 「グリーンシティ防災マップ」制作
15. 「ふれあい餅つき大会」（炊き出し訓練）
16. 「あいさつ運動」（すべての防災これから始まる）
17. 「小さな親切運動」
18. 「グリーンシティ安全活動」
19. 「我が家でできる防災訓練」実施
20. 「自警団」防犯に特化した組織の設立
21. 「防災パトロール隊」子どもたちと合同の夜回りによる防犯防災意識の啓発
22. 「パブリックビューイング」サッカーワールドカップ観戦会などを主催
23. 「命のライセンス」発行による被災時の行動指針開発
24. 「迷惑駐車一掃作戦」
25. 「防犯意識啓発運動」ひったくり防止（かごガード）全世帯配布
26. 「大切な人の命を守る」応急手当や救急救命法の訓練や資材整備
27. 「大切な人の命を守る」応急手当普及員による市民救命士資格取得の啓発
28. 「オリジナルD I G」（災害図上訓練）マニュアルの作成
29. 「D I G」災害図上訓練にクロスロードを加えた防災訓練の実施
30. 「1 0 0 0 円出しの会」楽しくやろう防災会議
31. 「エレベータ緊急時応急手当」訓練
32. 「型破りの炊き出し訓練」イカ焼き機で炊き出し訓練
33. 「災害紙上訓練D P G・グリーンシティを守る5 8 4の法則」防災小説継続
34. 「命のライセンス2 0 0 8」の企画制作
35. 「リアル災害図上訓練」（R-D I G）の企画実施
36. 「災害ハンター」オリジナル防災学習ゲーム
37. 「ちからこ部」（町内チャンピオンマップを改名）

38. 「あったカード」 (あんしんカードとひと声掛けて登録のコラボ)
39. 「安否確認訓練」で個人情報保護の壁を乗り越える

## グリーンシティ防災会が取り組んだソフト面とハード面の事業

### 【防災ハード面での事業】

1. 「防災放送設備の拡充」マンション内の緊急伝達システム機器の拡充
2. 「防災会ホームページ」防災情報や防災知識をより多くの方々に発信する運営管理
3. 「防災情報モバイルホームページ」携帯電話を利用した防災啓発と緊急伝達システムの構築
4. 「ニューメディアシステム1号」エレベータホールにテレビを設置
5. 「ニューメディアシステム2号」テレビを使った緊急情報を伝達する自主放送設備
6. 「グリーンネット」マンション内イントラネットを使うマンション運営情報及び緊急情報システム
7. 「緊急時安全管理システム」敷地内やエレベータ内に防犯カメラの設置
8. 「防災無線機」被災時マンション内通信システムの設置
9. 「防災掲示板」防災啓発や被災時生活情報の掲示用に設置
10. 「避難集合表示板」マンション内、災害時避難集合場所の表示板設置
11. 「遠隔操作ネットワークカメラ」マンション内の防犯防災体制の強化
12. 「オリジナル駐車駐輪シール」の作成配布による迷惑車両の追放
13. 「AED」自動体外式除細動器の設置
14. 「防災アイテム」各種防災資機材の整備
15. 「防災倉庫」の設置
16. 「防災啓発シール」各戸玄関扉に災害時役割シールの貼付
17. 「耐震化」地震対策として高置水槽を撤去しマンション上部の軽量化を図る
18. 「防災井戸」の設置で生活水の確保
19. 「トリアージシステム」導入
20. 「組立式簡易トイレ」災害時配布及びエレベータ閉じ込め時対応トイレの配備
21. 「マンホールトイレ」災害時対応トイレの配備
22. 「防災啓発システム」企業コラボでAED（自動体外式除細動器）を増設
23. 「ネットランチャー」防犯対策（携行型拘束網展開装置）を配備
24. 「防犯灯」防犯対策用に増設・強化
25. 「階段昇降機」災害弱者用の昇降装置を配備
26. 「エレベータの耐震化」による構造強化
27. 「防災ベンチ」災害時支援アイテムの設置
28. 「投げ消すサット119エコ」消火薬剤を配備
29. 「炊き出し専用倉庫」の設置

## 【防災ソフト面での事業内容】

### 1. 「防災ショットバー」FMラジオを通じて、楽しくお酒を呑みながら防災番組放送

2008年4月よりFM局「BAN-BANラジオ」とのコラボ2010年9月で第30回をむかえる。

「楽しく防災ラジオ」からはじまり、現在は「防災SHOTBAR・DIR」としてリニューアル。DIR（ディーア）とは、**D**isaster（災害）、**I**magination（想像力）、**R**adio（ラジオ）、「あなたに」という意味もあり、あなたに災害を想像していただく番組として放送しています。防災になんとお酒を取り入れた一風変わった防災ラジオ番組。

過去の災害により被災はしたが、頑張っって復興を目指す各地の酒蔵を応援したいという思いで、毎回各地から取り寄せ（購入）して、お酒や酒蔵の紹介も番組の中で行う。

毎回、ゲストがお客様に扮して「防災SHOTBAR」来店。そこで、どっぷり30分間防災漬けになる。防災を難しく考えないよう日常生活から分離させず、日頃の生活の中に組み込む「生活防災法」を伝授する番組。備えることが楽しくなる番組です。

「防災SHOTBAR」は毎月第2火曜日と第2日曜日に、加古川グリーンシティ防災会が、電波の届く放送エリア（加古川市役所を中心とした半径20kmの2市2町）の方々に向けて、86.9MHzで放送しています。

（経緯）「防災」という同じテーマを持つ2局（BAN-BAN RADIO とグリーンシティ防災インターネットラジオ）で番組を作ろうという話から実現した番組。



### 2. 「大地震トライアクト」地元FMラジオ放送コラボ第3弾の防災放送を制作協力

2010年秋から始まる地元FMラジオ放送局の防災啓発放送番組の制作協力を行っています。2008年から始まった地元FMラジオ放送局のタッグを組んだ防災啓発活動のひとつ。今秋より新番組「大地震トライアクト」がスタート。

毎日朝8時55分から放送する3分50秒のミニ番組です。

内容は一般のリッスナーに判りやすく身近な情報として放送します。

第1回「大地震が発生！？日頃から備えておきたいこと。」

第2回「こんな時に大地震が発生したら！？「出先編」

第3回「こんな時に大地震が発生したら！？「自宅編」

第4回「大地震発生後12時間以内の心得」

第5回「大地震発生後1日～3日の心得」

第6回「避難所では？」

第7回「愛する人を守るために」

2010.8.31時点

### 3. 「防災インターネットラジオ」 開局による防災啓発と遠隔地との通信体制

2007年1月から、加古川グリーンシティ防災会の新事業として、防災インターネットラジオ局を開局。2010年9月で第70回を向かえる。

地元FM局BAN-BANラジオさんの協力もあり、インターネットとFMラジオ電波にと防災をひとりでも多くの方々に届けたいとの思いで運営。

インターネットラジオとは、インターネットを通じて主として音声で番組を配信します。ラジオと称してはいますが電波ではなくインターネット上にてデータを配信するため、グリーンシティのホームページ上から配信、パソコン等を利用して聴取していただきます。グリーンシティ内では自宅のテレビで映るマンション内コミュニティ放送「ニューメディアシステム」の7チャンネルでも日曜日毎に放送配信。

インターネットラジオ局とは言っても、現在グリーンシティ内にある施設や設備を使用しみんなの知恵を出し合いお金を掛けずに運営しています。防災に楽しさをプラスして面白い番組であり、活字で伝えにくいような情報をわかりやすく色々な世代の方に楽しみながら防災を伝えられるように心掛けています。

「楽しく防災活動をやろう」をコンセプトに、防災インターネットラジオを通して「生活の中に防災を組み込む・生活防災」を伝えています。

インターネットラジオは、情報の伝達システムとして、日頃から各地の防災組織の方々との情報通信体制の構築も担っています。

また、関西一円で活動するビジュアル系バンドのDEARにテーマ音楽を依頼、若者世代とのインターネット放送と音楽を通じて、防災啓発の交流を行い、防災とは自分の大切なものを守る活動であり、誰もが担うものであることを形を変えて伝える目的も持つ。

真っ正面からの防災活動ではなくても、どのようなことであっても自分たちの信じ一生懸命に活動するものが防災に役立ち、人の命を守ることに繋がることを理解してもらい、そして、その上で防災の活動も理解して曲作りを行ってもらった。

**防災とビジュアル系バンドとの異色のコラボレーションも注目されている。**

**究極の防災クラウドの啓発事業です。**

The screenshot shows the website for E-kgb (防災インターネットラジオ). It features a header with the station's logo and a main content area with a table of activities and a list of songs.

曲名	アーティスト	1部	2部	3部	4部	5部	6部
7月10日放送	DEAR	防災活動の重要性	防災活動の重要性	防災活動の重要性	防災活動の重要性	防災活動の重要性	防災活動の重要性
8月10日放送	DEAR	防災活動の重要性	防災活動の重要性	防災活動の重要性	防災活動の重要性	防災活動の重要性	防災活動の重要性
9月10日放送	DEAR	防災活動の重要性	防災活動の重要性	防災活動の重要性	防災活動の重要性	防災活動の重要性	防災活動の重要性
10月10日放送	DEAR	防災活動の重要性	防災活動の重要性	防災活動の重要性	防災活動の重要性	防災活動の重要性	防災活動の重要性

Below the table, there is a section for songs with columns for '曲名' (Song Name), 'アーティスト' (Artist), and '備考' (Remarks). The songs listed include '防災活動の重要性' by DEAR, '防災活動の重要性' by DEAR, '防災活動の重要性' by DEAR, and '防災活動の重要性' by DEAR.

インターネットラジオホームページ







## 6. 「防災を学ぶ会」 災害時の連絡体制構築や支援協力について考える会の発足

グリーンシティ防災会は、以下の議題に関して近隣マンション役員の方々と会合を開き、今後の協力体制構築について合意を得ることができた。議題は非常時防災協力体制の構築、防災機器リストの公開と相互貸出体制の構築について、防災・防犯情報の提供と人員協力体制の構築について、相互協力体制の構築によるマンションの資産価値向上について、マンションと行政や警察との関係強化についてなどです。まだまだ手探りの状態ではありますが、今後多くのマンション間で何ができるのか、どのように連絡を取り合っていくかなど、有意義な話し合いを持ち、今後の活動への協力体制を構築しました。

近隣だけではなく全国の地域から、テレビ、新聞記事等各種メディアや、グリーンシティホームページをとおして、防災クラウドの一環でもある防災データの提供や連絡・協力体制の構築を行っています。

## 7. 「防災知識の共有」 防災講演を各地で開催し、防災知識の共有と防災意識の向上

グリーンシティ防災会の活動を全国に広げる目的として、防災アドバイザーとして各種学校や各地域に講演を行う。この活動をとおして、自分たちの活動を発信することで、全国の地域から多くの情報や活動報告が集まるなど、地域を越えた防災情報の共有化「防災クラウド」収集の事業として行っています。

## 8. 「グリーンだより」 毎月発行の広報誌による住民意識の高揚

毎月発行されるフルカラーの広報誌です。平成22年9月現在で229号。毎月の防災記事掲載により防災意識の高揚、危機管理意識、災害時の対策等を啓発しています。「防災クラウド」にある情報をアナログ化して手元に届けるシステム。



## 9. 「帰宅支援サポーター」 帰宅難民にならないための行動指針開発制作

いち早く家族の元に帰りたい！しかし、帰宅のためのアクセスが断絶している。そのような場合、無理をしても帰宅することを選ぶのか？それともその場でやらなければならないことがあるのではないかと、というシュミレーション的な行動指針で、帰宅困難者や帰宅難民になる可能性のある人たちに「帰宅支援サポーター」を作成いたしました。

仕事場や出先で災害が発生した場合、どのような行動をとればよいのか、また、「帰るべきか？」「残るべきか？」をパニックに陥りそうな発災にできる限り正確な判断を行えるよう持ち運び簡単にポケットサイズにしました。

2008年4月2日中央防災会議 発表

首都直下地震避難対策等専門調査会が「帰宅難民200万人3時間大混雑」を発表  
首都直下地震の直後、約1252万人が自宅を目指して歩き始め、うち約201万人が満員電車並みの混雑に3時間以上巻き込まれるという、シミュレーション（模擬実験）結果が発表されました。

加古川グリーンシティ防災会では、大阪や神戸という阪神地域に仕事場をもつ人が多く暮らしています。それらグリーンシティ居住者が帰宅困難に陥る可能性を示唆し、2006年より発案し企画してきました。

この「帰宅支援サポーター」は多くの方々のご協力研究成果が形となった「防災クラウド」事業の賜です。

基本形：A3横サイズ四つ切り、4枚綴り

The image displays a grid of pamphlets for the 'Return Home Supporter' project. The top row features six main pamphlets: 'Return Home Intentions' (帰宅の意思), 'Return Home 100 Points' (帰宅の心得100箇条), 'Return Home Points' (帰宅のポイント), 'Return Home Action Plan' (帰宅行動計画フロー), 'Return Home Station' (帰宅支援ステーション), and 'Return Home Safety' (危険がいっぱい). The bottom row contains several smaller pamphlets, including 'Return Home Safety' (帰宅の安全), 'Return Home Safety' (帰宅の安全), 'Return Home Safety' (帰宅の安全), 'Return Home Safety' (帰宅の安全), 'Return Home Safety' (帰宅の安全), and 'Return Home Safety' (帰宅の安全). The pamphlets are colorful and contain detailed text and diagrams.

## 10. 「安否確認プログラムSCP（スコープ Safety Confirming Program）」 災害発生時の的確な安否確認の為のシステム開発

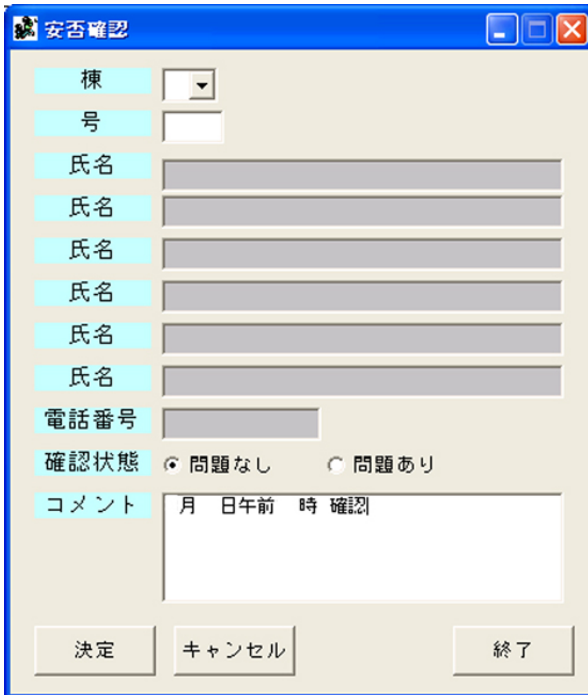
災害発生時に住民の安否をいち早く確認するため「安否確認プログラム・SCP（Safety Confirming Program）」を開発しました。

頭文字のSCPから名前を「スコープ」、発災時に埋もれてしまう情報を掘り起こすと言う意味です。

このシステムは、町内チャンピオンマップ登録のプログラマによって、開発していただきました。

各棟の図面に確認が取れた所から、色が付き、色によって現在状況を一目で判別できるようにし、搬送先や避難先も登録が簡単にできるシステムです。

イントラネット内での「防災クラウドデータ」として、災害時に運用します。



B 棟									
1401	1402	1403	1404	1405	1406	1407	1408	1409	1410
1301	1302	1303	1304	1305	1306	1307	1308	1309	1310
1201	1202	1203	1204	1205	1206	1207	1208	1209	1210
1101	1102	1103	1104	1105	1106	1107	1108	1109	1110
1001	1002	1003	1004	1005	1006	1007	1008	1009	1010
901	902	903	904	905	906	907	908	909	910
801	802	803	804	805	806	807	808	809	810
701	702	703	704	705	706	707	708	709	710
601	602	603	604	605	606	607	608	609	610
501	502	503	504	505	506	507	508	509	510
401	402	403	404	405	406	407	408	409	410
301	302	303	304	305	306	307	308	309	310
201	202	203	204	205	206	207	208	209	210
101	102	103	104	105	106	107	108	109	110
1号室系	2号室系	3号室系	4号室系	5号室系	6号室系	7号室系	8号室系	9号室系	10号室系

## 11. 「町内チャンピオンマップ」(自分の持っている特技の登録制度)

「防災クラウド」と命名されるまでにグリーンシティが各個人の情報をクラウド化し、必要ときに必要な情報を取り出せる「防災クラウドシステム」。

マンションには、いろいろな職種や免許を持った方々がいます。それらを防災に使わない手はないと考えました。

グリーンシティの防災意識の向上と、緊急時や災害発生時に何をすべきか、何を応援してもらうのか、緊急ボランティアをどのように呼びかけるのか等、グリーンシティの知恵袋集団やご意見番的集団として協力をお願いし、もしものときに適切な人に迷わず助言・力をかりることができるようにしました。

災害発生時、自分一人に対応することはできません。しかし、多くの人が集まれば色々な物事への対応が可能になるはずで。子守ならできる、何でもやります、お手伝いであればやります、炊き出しできます等、何でも登録していただき、いざというときの防災会の強い支えにします。現在の登録メンバーは約150名を超えました。

## 12. 「ひと声かけて」(災害時にひと声掛けてください)登録制度

お年寄りの方や傷病者、障害をお持ちの方がいらっしゃるご家庭等に、災害時に少しでも早く声掛けをするため、「災害時にひと声掛けてください登録」を呼びかけました。

「町内チャンピオンマップ」「ひと声かけて」は、災害に強いまちづくり、地域づくり、そして私たち自身の準備に役立つ取り組みです。

**加古川グリーンシティ防災会からのお知らせ**  
**町内チャンピオンマップに登録してください**



**防災会チャンピオンマップに登録してください**

災害時・緊急時に家屋の安全確認をした後、隣り近所で貴方の力を必要としている時に、貴方の仕事・趣味等の知識でスムーズに救助活動が行えるように、また、充分力を発揮できるように、貴方の持っている特技を登録してください。予め登録をしておいてください。迷わず貴方の知恵・力をかりることができます。

- ・大工仕事ができる
- ・エレベーターの修理ができる
- ・チェーンソー、エンジンカッター等を扱える
- ・高所作業にはなれている
- ・現・元看護師であるので血を流している人を見てもたじろくことなく応急処置ができる
- ・インターネットをしているので情報収集・発信ができる
- ・車の整備士免許を持っている
- ・建築士、土木施工管理士の免許を持っている
- ・福祉施設に勤務経験あり、福祉・子育てが得意

※その他、私にはこんな特技があるという方は是非、管理事務所に登録してください。(プライバシーを考慮して、資料の管理は防災会が行います)

また、高齢、身体的障害があるため「災害時にひと声かけて安全を確認してほしい」方も、予め登録しておいてください。配布しました登録申込用紙を紛失した方は、管理事務所へ申し出てください。



チラシを作って配布しました。





### 13. 「あんしんカード・REC（レック・Record）」あんしん情報登録制度


普段は運転免許証を持っているから安心と思うと大間違いです。個人の身分証明にはなるのですが、連絡先等が全く書かれていないのです。子どもたちや高齢者の方などは免許証を持っていませんから、特に身元が判明しにくいのです。

あんしんカードの内容は、血液型、治療中の病気、かかりつけの病院、緊急連絡先、広域災害時に役立つ遠方の親戚などを家族の共通の連絡先として、また地域避難場所なども記載しています。

このあんしんカード登録制度は、グリーンシティ居住者、又はグリーンシティに関係する方々を対象に「あんしん情報登録制度」として開始し、もしも登録された方が万一事故などにあわれたとき、あんしんカードを携帯しておくことにより指定された緊急連絡先に速やかに連絡を行ったり、ご家族の方やご親戚に連絡するシステムです。

申し込まれた情報は管理事務所において厳重に管理し保護され、他の人に知られることはありません。消防署等へあんしんカード製作のお知らせをし、携帯者の緊急時には防災会への緊急連絡をお願いしました。

頭文字から名前を「レック・REC(Relief Card)」と言い、安心な情報を記録すると言う意味です。

<b>あんしんカード</b>		2004年3月8日	
氏名			男
生年月日	昭和	年	月 日
住所	兵庫県加古川市加古川町平野24-1 加古川グリーンシティ		
治療中の病気			
かかりつけ医療機関			
電話	0794-		血液型
緊急連絡先	氏名		続柄 TEL
	氏名		続柄 TEL
	氏名		続柄 TEL
	共通連絡先		続柄 TEL
避難所	水丘南小学校		
備考			
ID: 0087 加古川グリーンシティ防災会 TEL0794-25-6852			

あんしんカード見本



## 「あんしんカード」に あなたも「緊急連絡先」を登録しませんか！

加古川グリーンシティ防災会では、グリーンシティ居住者、又はグリーンシティに関係する方々を対象に「グリーンシティあんしん情報登録制度」を開始します。

もしも、登録された方が万一事故などにあわれたとき、あんしんカードを携帯しておくことにより、指定された緊急連絡先に連絡したり、ご家族の方やご親戚に連絡するシステムです。

みなさんも、免許証をもっているから「あんしん」と思っていないませんか。免許証には緊急連絡先・かかりつけの医療機関・現在治療中の病気などは記載されていません。また、子ども達やお年寄りなどは、全く身分証を携帯していないのが現状だと思います。

### 登録窓口

加古川グリーンシティ管理事務所、防災会窓口

### 登録の申し込み方法

- ・ 登録にあたり、居住者の方は無料です。
- ・ グリーンシティに関係する居住者以外の方は、100円必要です。
- ・ 申し込まれた際の情報は、厳重に保護され他の人に知られることはありません。
- ・ 申し込み用紙は管理事務所で用意しています。
- ・ カードに使用する写真がない方は、申し込み時に管理事務所で撮影しますから、申し出てください。また、ご本人が申請窓口に来られないときには、最近撮影した写真をお持ちくださるか、カード取得後にご自身で貼り付けていただいても結構です。（お預かりした写真は、カードお届け時に返却いたします。）
- ・

### 「あんしんカード」を受け取る

登録が完了すると、後日「あんしんカード」をお届けします。登録の内容に誤りがなければ確認してください。

### 「あんしんカード」の携帯

あんしんカードはいつも携帯するようにしてください。



### 15. 「ふれあい餅つき大会」(炊き出し訓練のひとつ)

災害時を想定した炊き出し訓練の一環で、防災活動を通して地域の方々とのふれあいやつながりを大切にし、防災会をアピールする広報活動の場であり、また防災会の貴重な人材発掘の場でもあります。

この活動を経て、防災会の活動に積極的に参加していただける方を増やすことに成功しました。



## 16. 「あいさつ運動」(すべての防災はここから始まる)

「あいさつ運動」は、誰でも自由に参加できます。グリーンシティをにぎやかなあいさつでいっぱいになるように「あいさつ運動」を実施しました。

まずは、エレベータの乗り降りだけでも「おはようございます」「いってらっしゃい」「こんにちは」「ごくろうさま」「こんばんは」「さようなら」「おやすみなさい」まだまだいっぱいあります。

**「防災クラウド」の中では共通の言語「笑顔のあいさつ」です。**

### あいさつ運動

あいさつは、はじめの一言に勇気がいるようですが、大人も子どもたちを見習って恥ずかしがらずに大きな声で頑張らしましょう。そうすることで笑顔いっぱいのグリーンシティになることでしょ。あいさつからいろいろなことが始まるに違いありません。まずは、できることから始めていきましょう。そして、安全・安心の輪を地域のみんなに広げ、子どもたちやお年寄りも安心して住めるグリーンシティづくりを考えましょう。

「ありがとう」の言葉(あいさつ)の輪をひろげましょう。グリーンシティの中には、たくさん「ありがとう」が落ちているはず。車で駐車場の出入りや道を譲ってもらったときに「ありがとうの合図」。エレベータの乗り降りを待ってもらったときに「ありがとう」。今まで当たり前のように感じていたことにも、今一度感謝の気持ちを持って「ありがとう」と言ってみませんか。そうすることで、家庭の中にも「ありがとう」があふれてくるでしょう。そのあふれた「ありがとう」でグリーンシティをいっぱい埋めつくしましょう。皆様の「ありがとう」の一言はグリーンシティの何よりの栄養ドリンクなのです。

「ありがとう」の言葉は、人々の心を安定させ、それによってグリーンシティの地域力も著しく向上し、安全で住み心地のよいグリーンシティを創ることができるに違いありません。

上記のように「あいさつ運動」を啓発し、みんながあいさつすることへ恥ずかしがらずに取り組めるようポスター等を作成し、子どもから高齢者まで幅広い層に浸透させました。その結果、現在のグリーンシティはあいさつがいっぱい溢れています。



## 17. 「小さな親切運動」

### 「小さな親切の輪」 広げよう

グリーンシティでは、「小さな親切の輪」がすごい勢いで増殖しています。「小さな親切」とは、親切の大きさではなく誰もが持っている優しい「こころ」を形に表すことです。

今まで恥ずかしがっていた人たちも、「あいさつ運動」が始まってから進んであいさつをしたり、お手伝いをしたり等、いたるところで見受けられます。最近ではエレベータに乗って先にあいさつされてしまうと悔しがられる方もおられると聞きました。また、エレベータから降りるときも「開く」ボタンを押して「どうぞ」と待つあげる方も多くなっているとのことです。本当に些細であたりまえのことが自然にできる環境にグリーンシティは急速に向かっています。みなさんも乗り遅れぬように「小さな親切の輪」に入りましょう。

思いがけなく親切を受けたことはありませんか？防災会では、親切を実行して下さった人に心から感謝し敬意を表すため、「小さな親切実行章」（シール）を贈呈します。実行章は誰でも推薦でき、誰もが受章できます。日常の中で、ともすれば埋もれがちな心あたたかな人々を推薦。

「こんな些細なことも親切？」と思うことでも、受けた人やそれを見た人が感激すれば実行章の対象となります。

「小さな親切の輪」活動は、地域の人たちみんなが心にほんの少しのゆとりを持つことにより、あたたかい心が溢れるまちをつくり、笑顔の絶えない明るいまちづくりを推進し、災害時に心にゆとりを持った災害復旧ができる人々を作り出すための活動です。

### グリーンシティ「夏まつり」風景





## 20. 「自警団」防犯に特化した組織の設立

防災会の防犯担当部門として自警団を設立しました。幅広い世代の方々に協力を呼びかけ、夜回りや不審者対策などに多くの人たちが参加しています。

子ども自警団員にはオリジナル自警団カンバッチやシール等を作成配布し、防犯意識の向上と青少年の健全育成、社会のルールや交通ルール等を守る意識を啓発しています。

## 21. 「防災パトロール隊」子どもたちと合同の夜回りによる防犯防災意識の啓発

グリーンシティ防災会は、子どもたちの活躍が支えてくれていることが多くあります。子どもたちをいかにして防災会の活動に引き込んでいくかを考えました。

子どもたちの協力は本当に自主的です。定期的に行う夜回りには毎回多くの子どもたちが参加してくれます。数年前に加古川市教育委員会の方が夜回りの視察にお見えになったとき、ある子どもに先生が「誰かに言われて参加してるの」と聞いたそうです。その子どもは逆にこう聞いたそうです「ええ、誰かに言われて参加せなあかんの」と。先生は「そうか自主的に参加してるのかあ」と言われたそうですが、小学校低学年の子どもに「自主的」の意味がどうも判らなかつたようで、その子どもは「おっちゃんも夜回りするんやったら、むずかしく考えん方がええで、それと動きやすい服で来た方がええよ」と言ったそうです。

グリーンシティの夜回りは、外周800メートルを一周するのに、はじめの頃は2時間以上掛かっていました。迷惑駐車を一台ずつチェック、不審者への対応、悪徳訪問販売業者への注意、青少年の喫煙の注意、外部から侵入してきている若者のたむろに声掛け、そしてマンション内のポイ捨てによるゴミ拾いなどでした。沢山の子どもたちが参加してくれるようになって、その分大人の数も増えました。

子どもたちのおかげで、マンションの中でたむろやシンナーやたばこの喫煙があったのも今では全くと言ってもいいほどありませんね。



夜回り風景



## 22. 「パブリックビューイング」サッカーワールドカップ観戦会などを主催

この観戦会は次世代の防災会員の育成のため地域の子どもたちに防災会を広報し、緊急時に子どもたちが防災会の一員として動けるための広報活動として行い、防災会・自警団役員などの顔を子どもたちに知ってもらう為の活動です。

子こどもや大人を集会所に呼んで、プロジェクターを使って大画面の大音響で、近所迷惑かえりみずやるんですよ。マンションの総会やっても50人も来ないのが、150人近く集まるんです。そこで、防災会のメンバーがいろいろお世話をして、子どもたちに顔を覚えてもらう活動ですね。もしものときには、その子どもたちが、防災会の広報委員になるんですから、親がこちらの顔を知らなくても、子どもたちが「あっ、防災会のおっちゃんや」と声をかけてくれるようになってきました。なかなかの成果です。



おとなだけの観戦会

こどもと一緒に観戦会

このようなポスターも作り、地域の方々と楽しくパブリックビューイングをします。



### 23. 「命のライセンス」発行による被災時の行動指針の開発制作

グリーンシティ防災会は、わが家でできる防災訓練として、突然大地震が発生してもあなたとあなたの家族が無事でいられるように「命のライセンス」を作成しました。

地震発生直後から3日間をいかにあせらず過ごすかをまとめています。常に携帯することができ、必要なときに取り出して見られるようにカードサイズにしました。掲載した内容はいざというときに必要な最低限の内容にしました。折に触れて読み返し、いざという時に慌てず行動できるようにしておいてください。裏面には心肺蘇生法や避難場所、防災関係窓口、そして災害伝言ダイヤルの使用方法などを掲載しました。

「命のライセンス」は防災会メンバーの手作りです。カードサイズにしたために文字が小さく見えにくいとおっしゃる方には、見やすい大型サイズも用意しました。グリーンシティのホームページにも掲載致し多くの方々にデータの提供を行ったり、小学校や中学校の防災学習資料として提供したり、他地域の方からの要請で他の地域版も作成しご提供しました。



A3サイズ版



命のライセンス



「命のライセンス」は静岡県防災局からデータを提供していただき、グリーンシティにあわせた形式に変更し防災会メンバーが印刷から折り曲げまで手作りで製作いたしました。

## 24. 「迷惑駐車一掃作戦」

緊急車両が敷地内に進入してきたとき、多くの迷惑駐車車両のため、活動が迅速に行えないなどの問題が発生していました。その原因であった迷惑駐車を一掃しました。

1. 来客有料駐車場の設置 1時間100円
2. 駐車違反車両に罰金制度
3. 罰金請求の徹底
4. 常習者のリスト作成や分析
5. 防災会、自警団などの連携で徹底した違反駐車車両の取り締まり
6. 常習者との話し合いなど

上記活動を徹底的に行い現在、迷惑駐車車両はゼロになりました。

**新米客駐車場運用開始に関するお知らせ**

既に各戸にお知らせしたとおり、7月8日(月)から新米客駐車場の運用を開始しました。

今後グリーンシティの敷地内には、事前に管理者が許可した車両及び緊急自動車以外は無料で駐車することはできません。居住者の皆様には新米客駐車場運用の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願い致します。

なお、以下の「駐車券」を管理事務所販売していますので、必要な方はお買い求めください。

販売は10枚(千円)単位での販売となります。



(注) 無許可で敷地内に駐車した車両については、違反金3万円及び付帯費用を請求しますので、くれぐれも違反駐車されないようにお願いします。



## 25. 「防犯意識啓発運動」ひったくり防止（かごガード）全世帯配布

防災会では、地域防犯活動としてひったくり防止『かごガード』を無料で全世帯に配布しました。

加古川では毎日のようにひったくりが発生していました。地域の人々は地域で守るという意識から配布しました。



## 26. 「大切な人の命を守る」応急手当や救急救命法の訓練や資材整備

グリーンシティ防災会では定期的に心肺蘇生法訓練を行っています。

救急車到着前のバイスタンダーによる応急手当の実施は、救命効果向上の鍵を握っていると言われていています。救命効果の向上を考え、なかでも心肺停止傷病者の救命効果の向上のためには、「救命の連鎖」バイスタンダーによる迅速な通報と応急手当、搬送時の救急救命処置、医療機関における専門的治療の各段階で的確な措置が講じられることに加え、関係者相互の緊密な連携の下に一刻も早く次の段階へ橋渡しを行っていくことが不可欠であると考えられています。

このような視点から尊い生命を救うため、居住者への応急手当の普及啓発と救命講習開催を行っています。バイスタンダーによる応急手当が一人でも多くの傷病者に実施されるように、今後も応急手当の普及啓発と救命講習内容の充実等に積極的に取り組んでいきます。



AEDのトレーニングキットや心肺蘇生法教育器材の保管ロッカー

## 27. 「大切な人の命を守る」応急手当普及員による市民救命士資格取得の啓発

加古川市防災センター応急手当普及員講習において、グリーンシティ防災会員が応急手当普及員として平成17年に5名、平成18年に3名、平成19年に4名、平成20年に3名、平成21年に1名の合計16名が認定を受けています。

応急手当普及員認定により、グリーンシティ内外で多くの方々に救命に必要な応急手当の指導ができるようになりました。

グリーンシティ応急手当普及員による普通救命講習会では、副子固定法や止血法等の応急手当、搬送法、AED（自動体外式除細動器）を使用した心肺蘇生法の基礎知識、技能及び指導要領を学習し、AEDを正しく安全に使用できるよう徹底した訓練をします。

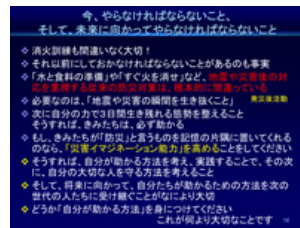
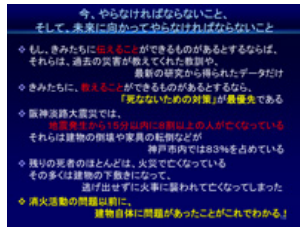
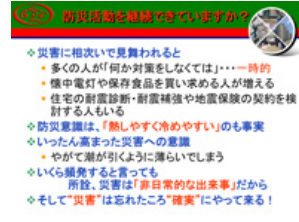
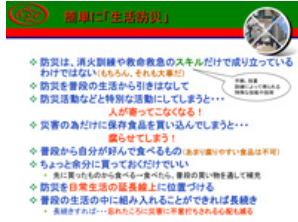
また、市民普通救命士、市民上級救命士等の講習会への参加啓発活動と講習会事前学習会、定期的な復習学習会も行っています。

「自分の大切な人を守ろう」と呼びかけ、随時開催しています。



## 6. 「防災知識の共有」防災講演会の実施で防災意識の向上

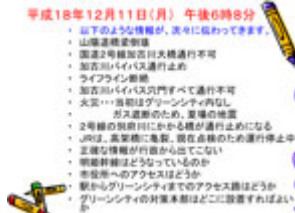
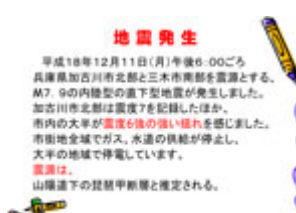
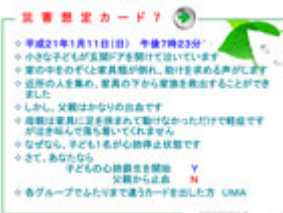
近隣の幼稚園や小学校や中学校などに防災の講演を行い、子供たちへの防災意識の啓発を行っています。また、防災会長が「防災伝道師」として全国の防災講座で講演を行っています。



講演会資料の一部

## 28. 「オリジナルDIG」（災害図上訓練）マニュアルの作成

「DIG」（災害図上訓練：Disaster Imagination Game）は、誰もが参加でき、近隣同志でコミュニケーションを取りながら、地域の防災について楽しく、かつ真剣に考え、継続性も期待できる「DIG」をグリーンシティ防災会の防災訓練に活用していく目的としてマニュアルを作成しました。この「DIG」は、地震、風水害に加え、社会問題化している連続放火火災も想定の対象としています。このマニュアルを活用して地域の特性・実態を取り入れた訓練を通じて、地域の防災コミュニティ形成が一層活発になればと思います。マニュアルの作成には、富士常葉大学小村隆史先生、名古屋消防署・静岡県防災局、三重県ハローボランティアネットワーク、三重県鈴鹿市には情報の提供を頂き、通常の「DIG」にリスクコミュニケーション「クロスロード」をグリーンシティ形式にして取り入れ完成しました。



## 29. 「D I G」災害図上訓練にクロスロードを加えた防災訓練の実施

「D I G」（災害図上訓練：Disaster Imagination Game）という方法を防災訓練として取り入れました。「D I G」は大きな地図をみんなで囲み、地図上で災害対策本部運営のシミュレーションを実施することによって、災害に対してどう備えるかを学ぶものです。

「D I G」は準備が簡単でお金もかからず、災害の程度や参加者の立場によって自由な設定やアレンジが可能です。作業を進めていけば、自分たちの住む街や、助けを求めている人の住む街がどのような状態になっているのかを再発見できたり、地図が何を訴えてきているのが理解できるようになるはずですが、しかも、「D I G」は作戦会議のようなもので、非常事態ということ想定すれば誰でも何かしら言いたくなるはずですが、個人と個人の意見がぶつかりあうことで参加意識は高くなり、災害の対応や救援活動などについて、様々な考え方があるということも自ずと理解できてきます。そして、その意見交換からよりよい防災活動の在り方がイメージされていくことになるのです。グリーンシティ居住者の幅広い年代層の多くの方々に参加していただき、経験や知恵をお借りしたいと思います。



## 30. 「1000円出しの会」楽しくやろう防災会議

会社関係や仕事関係など利害関係のない仲間が集まって、腹を割って話をするコミュニティの場です。理事会、役員会、夜回りなどの後に1000円ずつ出し合ってやる飲み会です。この会の中から色々なアイデアが生まれました。

アイデア発掘の場でもあり、気軽に仲間を増やしていける場です。この会を通して、多くの人材を防災会に引き入れていきました。

### 31. 「エレベータ緊急時応急手当」訓練

2005年7月の千葉県北西部地震では、東京都内で震度5強の大きな揺れを観測しました。その際、建物の被害は、火災2件のみでしたが、交通機関の運転停止や、エレベータの閉じ込めなど、都市型災害の発生が顕在化しました。

エレベータについては、都内の12万3千台のうち、3万9千台が停止し、42台のエレベータで閉じ込めが発生しました。閉じ込めからの救出にかかった時間は、通報後平均約50分で、最長170分であったそうです。震度5強でこの程度ですから、大規模な地震の際は、消防は消火や倒壊家屋からの人命救助等の対応に追われ、エレベータからの救出に向かうことができないと想定されます。また、エレベータ保守会社も公共施設や病院などから優先的に確認作業に入ると考えられます。そこで「自分のまちは自分たちで守る」基本理念から、その対策としてグリーンシティ独自の救出体制の整備が必要だと考えました。

しかし、今回の救出訓練が一朝一夕に実現できたわけではありません。訓練実現までには以下のような多くの問題点があり、我々はその一つひとつを乗り越え今回の訓練の日をむかえることができました。

#### 【問題点の一例】

- ① 一般人による安易な救出は危険を伴うため、安易に訓練のレクチャーはできない。
- ② 継続してその任に当たってもらえる体制が無ければ、指導する側も責任が持てない。
- ③ 救出時の保守会社との連絡体制の構築
- ④ グリーンシティ独自の救出マニュアルの制作
- ⑤ 定期的に訓練を開催する等



### 32. 「型破りの炊き出し訓練」イカ焼き機で炊き出し訓練

関西ならではの炊き出し装置です。

グリーンシティ防災会では、自動高速炊飯装置の導入を検討していましたが、炊飯には高速炊飯タイプのもので3升炊飯するのに30分要します。まして洗米等を考えると間違いなく30分以上は必要なのです。3升タイプ炊飯器では1回の炊飯で約30人分の食が賅えると考えられます。しかしイカ焼き機の場合では1分30秒で少なくとも2人前が焼き上がります。単純に30分で40人分の食を賅うことが可能です。

またイカ焼き機は、イカ焼きだけではなく瞬時に火を通すことが可能というメリットがあり、災害時に於いても色々な食材に火を通すことにより、少しでも安全なものにして多くの方々に供給することが可能だと考えました。そしてなにより、食べている人々は笑顔がいっぱいです。





### 33. 「災害紙上訓練DPG・グリーンシティを守る584の法則」防災小説を継続

いつ起きるかわからない大地震！その大地震をグリーンだよりやインターネットラジオ上で体験し「いかにして自分の命を守るか」を考える小説ゲームです。

地震想定日は、4月中旬の日曜日、マンションの8階に住む主人公の大石さん家族がのんびりとラジオの音楽を聞きながら朝食を食べているその瞬間に発生する。目の前に広がる風景、あなたの生活、何もかもが一変する防災小説。

第1回「大地震発生！」

第2回「停電！静寂？余震への前触れ」

第3回「助け合い！」

第4回「広がる人の輪」

第5回「救え！尊い命！」

第6回「救出！」

第7回「協力！」

第8回「避難！」

第9回「ぬくもり！」

第10回「要援護者」

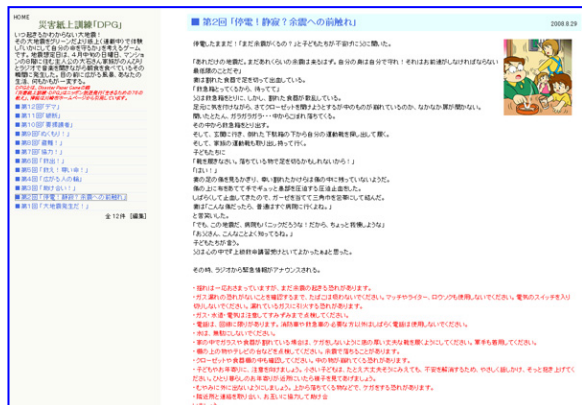
第11回「破断」

第12回「デマ」

以後、継続中

さて、あなたならこの体験をどう感じるのでしょうか？

この訓練に出てくる数々の状況や解決方法は、過去の地震災害による「教訓」によって考え出されたものばかりです。その中の解決方法などは、専門的な技術がなければできないことではありません。ほんの少しだけ私たちのライフスタイルを広げることで、活用できるものとなっています。近い将来必ず襲ってくる大地震から私たち自身、そして愛する家族の命を守るためにホームページとグリーンだよりで「DPG・グリーンシティを守る584の法則」を継続していきます。



ホームページ画面



### 34. 「命のライセンス2008」の企画制作

2004年にわが家でできる防災訓練として、突然大地震が発生してもあなたとあなたの家族が無事でいられるように「命のライセンス」を作成しました。

2008年、「ひょうご安全の日推進事業」を受けて前回からの改訂版を発行し、「自分自身や自分の大切な人たちを守る」方法を強化することとしました。

地震発生直後から3日間をいかにあせらず過ごすかをまとめています。

常に携帯することができ、必要なときに取り出して見られるようにカードサイズにしています。

掲載した内容はいざというときに必要な最低限の内容にし、折に触れて読み返し、いざという時に慌てず行動できるようにしました。裏面には心肺蘇生法や避難場所、防災関係窓口、そして災害伝言ダイヤルの使用方法などを掲載しました。

基本形：A3サイズ、4枚綴り

### 【改編した場所】

- ・ 水分摂取の呼びかけにより、心疾患の予防防止
- ・ 近年の災害による救助を行った大半が救助隊ではなく一般人であることを明示
- ・ 直接的死因の圧死を如何に防止するのか
- ・ 日頃から心掛けるための「生き残るためのチェックリスト」
- ・ 電話機の受話器を地震後元に戻す必要性
- ・ 懸念されるトイレ問題 等

### 35. 「リアル災害図上訓練」(R-D I G)の企画実施

R-D I Gとは、実際の災害を想定し順次起こる被害を学習体験していくものです。Rの意味は、Real(現実の、実存する、実際などを意味)と Role-playing(実際の場面を想定し、さまざまな役割を演じさせて、問題の解決法を会得させる学習法の意味)上記、二つの意味を持つ訓練法を示し、D I G(ディグ)は、災害(Disaster)のD、想像力(Imagination)のI、ゲーム(Game)のG。

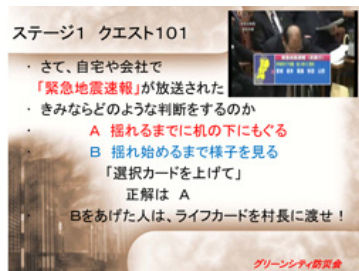
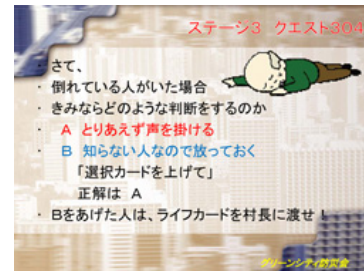
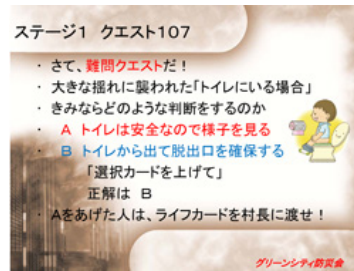
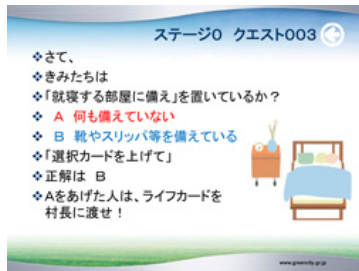
災害シミュレーションを現実的なものとして実施することにより、災害に対してどう備え、どのように構えておくのかを一連の流れの中で訓練する方法で、阪神淡路大震災・中越地震・中越沖地震・能登半島沖地震等の教訓を元に、災害発生の瞬間から、平行して発生する多くの問題。それらを頭の中だけではなく、実際に体験しながら学習していくものです。

発生する数々の問題を解決していくのに要する時間や連絡伝達体制など見えていなかった問題点を掘り起こし修正していく訓練です。

これにより、近い将来、私たちが直面するであろう災害に、可能な限り備え構えておこうというものです。



## 36. 「災害ハンター」オリジナル防災学習ゲーム



ゲームは簡単！各ステージで出題されたクエストに正直に回答するだけ。

不正解の場合は「ライフカード」1枚を村長に渡す。もしも「ライフカード」が無くなれば、「ライフカード」が無くなったことを村長に申告し、チーム内で他のハンターから「ライフカード」を受け取ることもできる。ただし、チーム内にライフが少なければ！？各ステージにはライフ復活クエストも設定。優勝者（チーム）には賞品、最下位には？学習内容は！普段の生活の中で備えること。災害発生時の対応方法。身の守り方。チームづくり。防災・減災の学習等のみんなと一緒に創り上げる進化型のゲームです。

本ゲームは数々の専門家の提言から作成したものです。

- ・ハンター（ゲーム参加者）
  - ・各参加者は見習い災害ハンターとしてゲームに参加
  - ・村長（リーダー）
  - ・各班のリーダー（ゲーム進行の審判員）
  - ・教官（司会進行係）

楽しくみんなで備える方法を学ぶゲームです。

### 37. 「ちからこ部」(町内チャンピオンマップを改名)

#### 旧町内チャンピオンマップを部活動化

何故に改名を必要としたのか？

登録者数の伸び悩み。その原因が名前にあったのです。

「私はチャンピオンと言われるほどでもない」と言う人が多いことに気付きました。全国的に広がった「町内チャンピオンマップ」の名前を捨て、「ちからこ部」と言う大きなことは出来ないけれど、力こぶくらいのお手伝いはできるかもと言う思いのある方々に登録をして頂きたく改名に至る。

あなたのできることを何でも登録して下さい

あなたができることを必要としています

あなたが持っている“技”や、あなたに“できること”を、災害が発生する前に登録していただく募集(入部)のお願いです！

多彩な「ちからこ部員」が多いと、あなたとあなたの大切な家族は、限りなく命が助かる近道を手に入れることができます

ではなぜ、今必要なのでしょうか？

災害発生後には、どうしても大切な人を残して仕事に向かわなければならないということは、大切な人を守ってくれるのは誰でしょう？「地域の人たち」です。その為には、日頃から地域活動に参加することであなたの大切な人を守ることに繋がります！自分の大切な人を守ってくれる地域を自分たちで日頃から創り上げることで、残されたもの同士が「助け合えるシステム」が構築されるのです。そうすれば、あなたは安心して仕事に向かうことができます！

このシステムがあなたのバックアップとなる新システム「ちからこ部」です

「ちからこ部」に入部することであなたの防災スキルはアップします

「ちからこ部」の活動は災害発生時のみとなります

それらの活動を維持できるよう、グリーンシティが備蓄する食料等は災害発生時に「ちからこ部」登録のボランティアが活動する体力維持の為に優先的に使用しますのでご了承下さい

御存知ですか？

東日本大震災の津波から、命が助かったほとんどの人は何らかの形で日頃から「防災活動・地域活動」に参加していた人だったのは、東日本大震災から一年を迎えて周知の事実なのです！ひとりは一人では生きていけないのです

あなたの大切な人を守ろう！

今回登録すれば、ひとりで個  
人防災用品がもらえるぞ！

# 「ちからこ部」入部募集



(旧町内チャンピオンマップ特技登録制度)

**あなたのできることを何でも登録して下さい**

**あなたができることを必要としています**

あなたもっている“技”や、あなたに“できること”を、災害が発生する前に登録していただく募集（入部）のお願いです！

多彩な「ちからこ部員」が多いと、あなたとあなたの大切な家族は、限りなく命が助かる近道を手に入れることができます

ではなぜ、今必要なのでしょうか？

災害発生後には、どうしても大切な人を残して仕事に向かわなければならないということは、大切な人を守ってくれるのは誰でしょう？「地域の人たち」です。その為には、日頃から地域活動に参加することであなたの大切な人を守ることに繋がります！自分の大切な人を守ってくれる地域を自分たちで日頃から創り上げることで、残されたもの同士が「助け合えるシステム」が構築されるのです。そうすれば、あなたは安心して仕事に向かうことができます！

このシステムがあなたのバックアップとなる新システム「ちからこ部」です

「ちからこ部」に入部することであなたの防災スキルはアップします

「ちからこ部」の活動は災害発生時のみとなります

それらの活動を維持できるよう、グリーンシティが備蓄する食料等は災害発生時に「ちからこ部」登録のボランティアが活動する体力維持の為に優先的に使用しますのでご了承下さい

御存知ですか？

東日本大震災の津波から、命が助かったほとんどの人は何らかの形で日頃から「防災活動・地域活動」に参加していた人だったのは、東日本大震災から一年を迎えて周知の事実なのです！ひとりは一人では生きていけないのです

**登録方法**

別紙の登録書に、氏名・性別・年齢・携帯電話番号、お手伝い（特技・取得技能等）をご記入ください。例えば、「何でもやります」「お手伝いできます」でもOK！

※登録された情報は防災会活動においてのみ使用し、その他の目的には一切使用しません

また、本登録は災害時に於いても、登録者に義務を課すものではありません

**以前に「町内チャンピオンマップ」へご登録いただいた方も、再度ご登録をお願いします。**



## 防災人材バンク「ちからご部」 お手伝い(特技等)登録書

棟 \_\_\_\_\_ 号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ 電話番号 \_\_\_\_\_

※グリーンネット (McCloud) フォーマットをダウンロードできます

氏名	年齢	性別	お手伝いできることNo. (技能・特技)	記念品No.
		男・女		
		男・女		
		男・女		
		男・女		
		男・女		

※下欄の特技No.から該当するものがあれば、その番号を特技欄にご記入（複数可）いただいてOKです。  
その他、私にはこんな特技があるという方は是非、記入してください。

① 災害時は可能な範囲で協力します	⑪ 各種（記載してください）検査技師です
② 自分にできるお手伝いをします	⑫ ライフライン関係の仕事をしている（職種記載）
③ 医師です	⑬ 電気工事できます
④ 元・現 看護師です	⑭ 各種の整備士免許をもっています
⑤ 元・現 介護士です	⑮ パソコンで情報収集、発信、整理等できます
⑥ 元・現 薬剤師です	⑯ カメラやビデオで記録を撮ることができます
⑦ 保健・医療関係の知識があります	⑰ 英会話ができます
⑧ メンタルケアができます	⑱ カ仕事できます
⑨ 消防・防災等の専門知識があります	⑲ 大工仕事が得意です
⑩ 防犯の対策等の専門知識があります	⑳ 炊き出します
⑪ 災害時は公務優先だが平時にお手伝いします	㉑ 物資の整理・配給できます
⑫ 救命講習を受講している（AED使用可）	㉒ 買出します
⑬ 建築士、土木施工監理士等免許を持っています	㉓ 子守できます
⑭ ユンボ等の建設重機を扱えます	㉔ ゴミの分別できます
⑮ チェーンソー、エンジンカッタ等を扱えます	㉕ 災害時趣味を生かすことができる（裁縫等）
⑯ 土木・建設関連の知識があります	㉖ その他（具体的にお書きください）

登録された情報はグリーンシティ防災会活動においてのみ使用しその他の目的には一切使用しません  
提出は、管理事務所または各棟管理組合ご意見箱にお願いします

加古川グリーンシティ防災会

### 38. 「あったカード」(あんしんカードとひと声掛けて登録のコラボ)

#### あったから安心・あったから助かった・あったかいお付き合い 「あったカード」登録募集

(あんしんカードとひと声かけて登録をコラボ)

居住者及び関係者を対象に、あなたを守る証明書「あったカード」登録制度。

日常の中でももしも何かが起こった時、誰に連絡をすれば良いのか？すぐに家族や親戚に警察や救急からうまく連絡がつけば良いでしょうが、そうはうまくいかないものです。連絡を付けるまで数時間から数日かかる場合もあります。

例えば、子どもが自転車でひとり遊びに出かけていた時に交通事故に遭っても、子どもたちが身分証明となるようなものを持っているのは稀です。そんな時でも、「あったカード」に登録し日頃から所持していれば、「あったカード」登録先に速やかに連絡することができます。また、「あったカード」を所持していない時でも、グリーンシティ自転車登録証を自転車に貼っていれば、自転車の登録から家族に連絡することができます。実際、子どもの単独事故の場合、夜になっても帰宅せず、家族の捜索願が出てから、我が子が事故に遭っていたことが判る場合もあるのです。

また、高齢者の場合も同じで、保険証などの所持品から身元がわかり連絡できるのですが、独居や高齢者のみの世帯の場合、連絡先を探すことが困難になり時間を要することが多々あります。そんな場合でも、「あったカード」に登録しておけば、適切な連絡先に速やかに連絡することができ、遠隔地の家族や親戚も安心できるようになります。

現役世代は身分証明があるから安心していませんか？

その身分証明には家族への連絡先は記載されていますか？

「あったカード」は日常の緊急連絡体制や災害時の連絡にも機能する優れたものです。お年寄りの方や傷病者、障がいをお持ちの方がいらっしゃるご家庭等には、少しでも早く声をかけられるように、「災害時要援護者用」にも登録をお願い。障がいによってはFAX通信等の必要な方は、あわせてお知らせのお願いをしました。



# あったから安心・あったから助かった あったかいお付き合い 「あったカード」登録募集

(あんしんカードとひと声かけて登録をコラボしました)

居住者及び関係者を対象に、あなたを守る証明書「あったカード」登録制度を開始します。

日常の中でももしも何かが起こった時、誰に連絡をすれば良いのか？すぐに家族や親戚に警察や救急からうまく連絡がつけば良いのですが、そうはうまくいかないものです。連絡を付けるまで数時間から数日かかる場合もあります。

例えば、子どもが自転車でひとり遊びに出かけていた時に交通事故に遭っても、子どもたちが身分証明となるようなものを持っているのは稀です。そんな時でも、「あったカード」に登録し日頃から所持していれば、「あったカード」登録先に速やかに連絡することができます。また、「あったカード」を所持していない時でも、グリーンシティ自転車登録証を自転車に貼っていれば、自転車の登録から家族に連絡することが速やかにできます。実際、子どもの単独事故の場合、夜になっても帰宅せず、家族の捜索願が出てから、我が子が事故に遭っていたことが判る場合もあるのです。

また、高齢者の場合も同じで、保険証などの所持品から身元がわかり連絡できるのですが、独居や高齢者のみの世帯の場合、連絡先を探すことが困難になり時間を要することが多々あります。そんな場合でも、「あったカード」に登録しておけば、適切な連絡先に速やかに連絡することができ、遠隔地の家族や親戚も安心できるようになります。

現役世代は身分証明があるから安心していませんか？その身分証明には家族への連絡先は記載されていますか？「あったカード」は日常の緊急連絡体制や災害時の連絡にも機能する優れものです。

そして、お年寄りの方や傷病者、障がいをお持ちの方がいらっしゃるご家庭等には、少しでも早く声をかけられるように、「災害時要援護者用」にも登録をお願いします。障がいによってはFAX通信等の必要な方は、あわせてお知らせください。

※登録された情報は防災会活動においてのみ使用し、その他の目的には一切使用しません



# 「あったカード」登録書

## 緊急連絡先登録用 (ひとり1枚)

複数枚ご要り用の場合は、コピーまたは管理事務所までお願いします  
 ※グリーンネット (McCloud) よりフォーマットをダウンロードできます

記念品No.	記念品は「ちからこ部」募集用紙に添付の記念品欄からお選びください		
住所 グリーンシティの方は上段のみ 外部の方は下段に住所を記入	棟	号	自宅電話 携帯電話
ふりがな			
氏名			
性別	男 ・ 女		
生年月日	M. T. S. H.	年	月 日
血液型	A B O AB 型 Rh (+) (-)		
かかりつけ医療機関	病院・医院・クリニック		
持病や治療中の病気			
緊急連絡先 No.1	氏名	TEL	続柄
緊急連絡先 No.2	氏名	TEL	続柄
緊急連絡先 No.3	氏名	TEL	続柄
共通連絡先	氏名	TEL	続柄
備考			

加古川グリーンシティ防災会



# 「あったカード」登録書

## 災害時要援護者用（住戸単位）

棟 号 氏名 電話番号

災害時に協力が必要な方は遠慮なく以下に記述してください

氏名	年齢	性別	自力避難の可・不可	支揃No. (要援護支援内容)	記念品No.
		男・女	可・不可		
		男・女	可・不可		
		男・女	可・不可		

下欄の要援護支援No.に該当するものがあれば、その番号をご記入いただいても結構です  
※記念品は「ちからこ部」募集用紙に添付の記念品欄からお選びください

① 高齢者です	⑨ 酸素供給装置等を使用している
② 独居です	⑩ 杖が必要です
③ 障がいがあります（可能なら記載）	⑪ シルバーカーが必要です
④ 疾患があります（可能なら記載）	⑫ ひとりで避難準備をするのは不可能
⑤ 車椅子が必要です	⑬ 災害時は声を掛けて欲しい
⑥ 介助者が必要です	⑭ 緊急放送が聞こえにくい
⑦ 介護者が必要です	⑮ FAX通信希望します
⑧ エレベータが必要です	⑯ その他（具体的にお書きください）

登録された情報はグリーンシティ防災会活動においてのみ使用しその他の目的には一切使用しません

提出は、管理事務所または各棟管理組合ご意見箱をお願いします

加古川グリーンシティ防災会

### 39. 「安否確認訓練」で個人情報の壁を乗り越える

#### 安否確認訓練で情報の可視化

「誰かが誰かを救える」こんな時代は終わったと言える。

自分の情報は外部に発信せず、どのようにして外部の人があなたの情報を得ることができるのだろうか？

災害時に情報の把握の早さで人の命を救うことができるかどうかが決まると言われている。

阪神・淡路大震災の死亡者6433人とされるが、うち約5500人が震災による直接死亡で、900人強が震災関連死と認定されている。しかし、直接死5500人のうち85%が倒壊建物・家具による圧死や窒息死であり、また65%が震災発生から15分以内に絶命した即死であったとの報告がある。この即死者は、救出救助の対策では救えず、改めて建物の耐震強化の重要性が提起されたと言われているが、15分以内の救助が可能な人は「ご近所の人」。その人達をご近所の情報を知っておくことが大切だ。

そこで考えたのが防災訓練の出欠表と一緒に「安否確認用の家族構成」を提出して頂くのが良いと考えました。

自分の責任で自分が情報を開示する。逆に言えば、情報を開示しない家には安否確認に行く必要がないということになるのです。

例え、災害時要援護者になると言われる人達でも情報を開示しなければ、どのような障害があり、どのようなことができないのか近所の人には全く判らないのです。

#### 要援護者対策

守ってあげる・守らなければならない・私が行かなければ、と言う「正義感」が強い地域ほど、

守られるている・守ってもらえる・誰か助けに来てくれるだろう、と言う「依存心」を持つ人が多くなる。

本当にこれで良いのか？

こんなことをして、共に助かる方法は本当にあるのか？

「見捨てて生きながらえて、一生悔やむのか？」

「要援護者を助けに行って共に亡くなる！」

果たしてこれらは正しいことなのか？

他者の命を救う為には「まず自分が死なない方法」を身につける必要がある。

それを置き去りにして、救助と言うものは不可能なのです。

# 防災（消防）訓練 出欠（安否）報告書

（出欠確認は「安否確認訓練」を兼ねています）

なぜ、消防訓練って必要なのか？火災や地震などの災害は、いつ、どこで発生するか予測できません。もし、災害が発生した場合、被害を大きくしないためには、消防隊が到着するまでの間に、住民が適切に対応行動をしなければなりません。そのため、繰り返しの訓練によって万一のときの対応を覚えることが必要なのです。マンションでの消防訓練の実施は、マンション住民に対する義務として消防法で定められています。消防法では、『訓練を定期的実施しなければならない』とあります。

- 消防訓練は、グリーンシティに居住する者全員が対象です
- 下記の出欠確認表に居住する方の（安否）を記載してください
- 出欠を届けることは、災害時の安否確認訓練の一環としています  
ご協力ください。

※提出の無い場合、災害時には安否確認が不可能となることがあります。

加古川グリーンシティ防災会

キ リ ト リ

## 防災（消防）訓練 出欠（安否）報告書

希望 当日参加記念品No. \_\_\_\_\_

記念品は「ちからこ部」募集用紙に添付の記念品欄からお選びください

棟		号室	
ふり 氏	が 名	性別	出欠確認
		男・女	出・欠
		男・女	出・欠
		男・女	出・欠
		男・女	出・欠
		男・女	出・欠
		男・女	出・欠

加古川グリーンシティ防災会

## 第1部 消防訓練（自衛消防訓練）出欠表

### 必ず提出を！

### 出欠確認は「安否確認訓練」のひとつです。

なぜ、消防訓練って必要なのか？火災や地震などの災害は、いつ、どこで発生するか予測できません。もし、災害が発生した場合、被害を大きくしないためには、消防隊が到着するまでの間に、住民が適切に対応行動をしなければなりません。そのため、繰り返しの訓練によって万一のときの対応を覚えることが必要なのです。マンションでの消防訓練の実施は、マンション住民に対する義務として消防法で定められています。消防法では、『訓練を定期的実施しなければならない』とあります。

消防訓練には、グリーンシティに居住する者全員が対象となります。

下記の出欠表に居住する方の出欠（安否）を記載して下さい。

出欠を届けることは、災害時の安否確認訓練の一環としています。ご協力下さい。

訓練当日は参加の出欠に関係なく安否確認のため、同じフロアの居住者がインターホンを鳴らします。

加古川グリーンシティ防災会

※10月20日（水）までに管理事務所にお申し込みください。

キリトリ

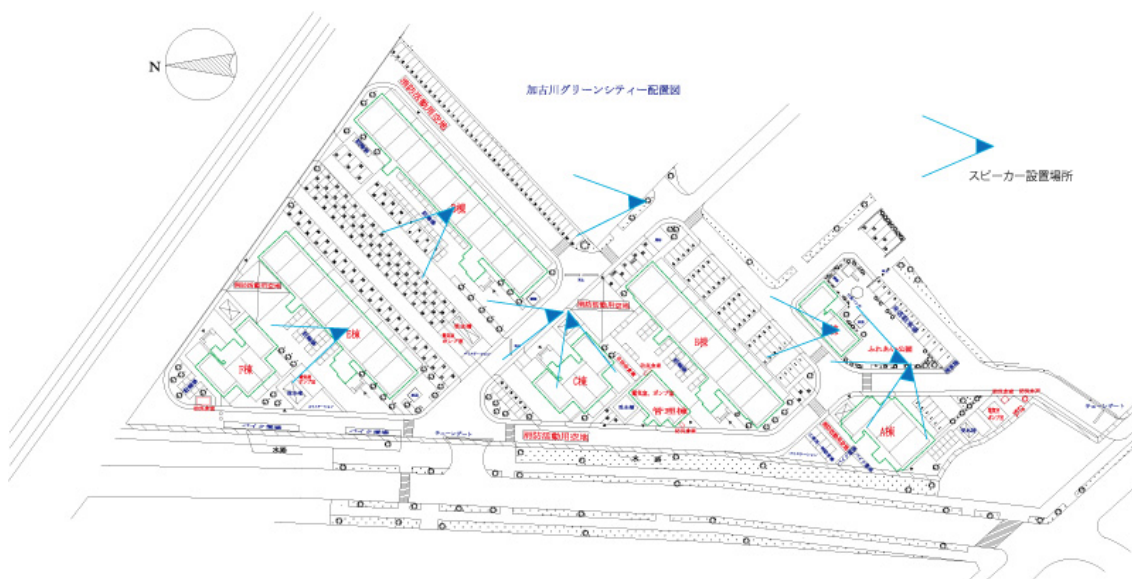
第1部 消防訓練（自衛消防訓練）の出欠（安否）を報告します。

棟		号室	
氏	名	性別	出欠確認
			出・欠
			出・欠
			出・欠
			出・欠
			出・欠
			出・欠

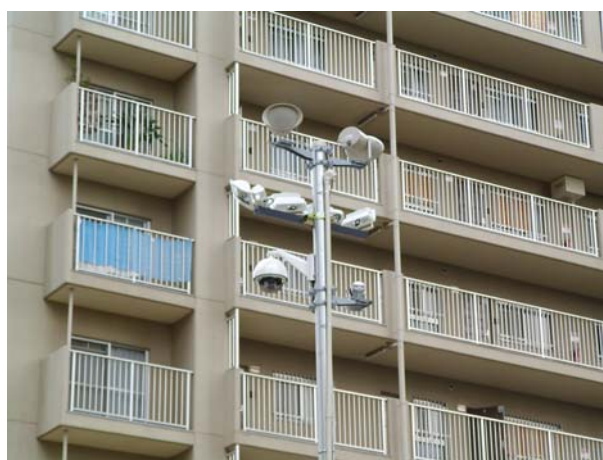
## 【防災ハード面での事業内容】

### 1. 「防災放送設備の拡充」 マンション内の緊急伝達システム機器の拡充

マンション内には、防災放送用スピーカーがセンター広場に1箇所であった。その為、マンション内の全てをカバーできていなかった。しかし、2010年6月のC棟火災発生時に居住者の方々から、「放送が聞こえずお手伝いができなかった。是非とも放送設備の拡充を！」との声を受け、マンション全体をカバーできる放送設備の導入に入る。



### センター防災放送設備



## 2. 「防災会ホームページ」インターネットによる外向けのホームページ運営

知り得た防災情報や防災知識をより多くの方々に発信する運営管理

パソコンでのホームページを自主製作し、内外に防災情報やマンションの情報を提供。



メインページ

<http://www.greentown.gr.jp>



防災会のページ

## 3. 「防災情報モバイルホームページ」携帯電話を利用した防災啓発と災害発生時緊急伝達システムの構築

携帯電話でも見ることでできる防災情報サービス「グリーンシティモバイル防災会」で情報を提供し、携帯電話で災害情報や防災啓発情報、心肺蘇生法学習等も行えます。

携帯への登録が簡単にできるようにQRコードを広報誌グリーンだよりやホームページに掲載し、登録のお願いをしました。

<http://www.greentown.sakura.ne.jp/kinkyu.htm>





#### 4. 「ニューメディアシステム1号」エレベータホールにテレビを設置

エレベータホールの液晶モニターで緊急情報やコミュニティ情報を確認できるようにしました。防災情報及び各種コミュニティ情報を放送し、幅広い方々に伝達が可能になりました。



#### 5. 「ニューメディアシステム2号」

##### 24時間テレビを使った緊急情報を伝達する自主放送設備

エレベータホールに「ニューメディアシステム」設置をしましたが、緊急情報を1階のエレベータホールまで確認に行かなければなりませんでした。そこで、テレビの空きチャンネルに接続し、各家庭で緊急情報やコミュニティ情報を確認できるようにしました。台風などの警報発令時など、各種学校園の対応を各担当役員が自宅及び出先からも書き込みを行えるような仕組みで放送配信するようにしました。また、ニューメディアシステムでも、防犯カメラの情報をリアルタイムで放送しています。



テレビの「ニューメディア」放送画面

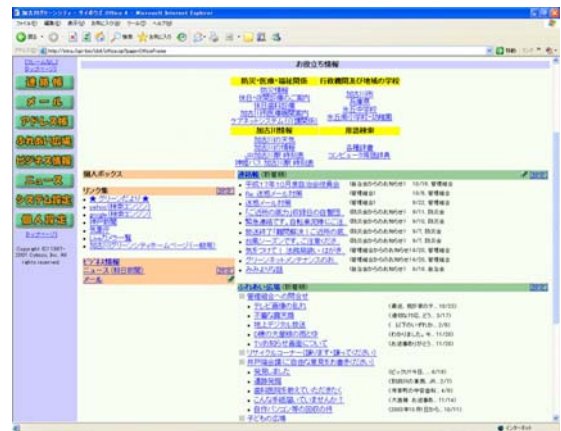
## 6. 「グリーンネット」イントラネットを構築し、 マンション運営情報及び緊急情報伝達システム導入

マンション運営情報及び緊急情報伝達システム「グリーンネット」を構築しました。

全家庭へ新規にLANケーブルを敷設し、光通信による居住者間のイントラネット情報伝達とインターネットアクセスの円滑化を行う。

グリーンシティ内には総合的な連絡網が、1階の掲示板以外存在しませんでした。防災面及び今後のマンション運営面を考えたとき、自宅で確認できる「情報共有設備」の必要性を強く感じ、「マンション運営情報及び緊急情報伝達システム設備」導入を決定し、その愛称を「グリーンネット」としました。

また、災害発生時の想定で、インターネット網を強化する目的で、複数プロバイダの利用と2本の光通信網を利用し、災害発生時のバックアップ体制も構築している。



グリーンネット用サーバールーム



端末機器

ここで新聞編集やニューメディア編集などを行う

## 7. 「緊急時安全管理システム」敷地内やエレベータ内に防犯カメラの設置

グリーンシティでは、防犯防災対策として固定式記録型デジタル防犯カメラを設置しました。居住者のマナー向上はもとより、不審者の対策、迷惑駐車対策、緊急時の総合的確認システムです。

このカメラはエレベータ内に10台、外部侵入者対策用エントランスホールに8台、チェーンゲートや周回道路確認用に22台が稼働中です。緊急時や災害時における早期対応が期待できます。



## 8. 「防災無線機」被災時マンション内通信システムの設置

災害時の非常通信手段として、防災用無線機を配備しました。管理事務所及び各棟担当防災会役員の家庭に設置し、緊急時の連絡体制を構築しています。

マンションの敷地は範囲が広いので通常のトランシーバでは対応できませんでした。そのため、業務用無線機を導入し、管理棟の屋上にアンテナも設置しました。

親機 1台  
子機 10台



## 9. 「防災掲示板」防災啓発や被災時生活情報の掲示用に設置

防災啓発に関するポスターや各種イベント告知用として設置しました。



## 10. 「避難集合表示板」マンション内、災害時避難集合場所の表示板設置



災害時の避難集合場所をわかりやすく表示しました。

## 11. 「遠隔操作ネットワークカメラ」マンション内の防犯防災体制の強化

ネットワークカメラを設置することにより、防犯防災体制の強化を図り、パソコン上の「グリーンネット」から、防犯カメラ映像を見ることができるようになりました。

また、無線で通信させているため、今後も可搬性ネットワークカメラの増設を検討中。

このシステムは、バイク駐輪場の不審者対策として取り付けたものです。バイク駐輪場では再三のガソリン抜き取り事件やバイク盗難事件などが発生しました。ガソリン抜き取りなど、ひとつ間違えば大災害になりかねません。

人任せにせず居住者全員が防犯防災意識を持ち全員でまちを守る為の確認システムです。



## 12. 「オリジナル駐車駐輪シール」の作成配布による迷惑車両の追放

以前のシールでは、車やバイク、自転車に似合わない、格好悪い等から貼り付けない方が多く見受けられました。しかし、シールのデザインを居住者がアイデアを出し合いオリジナルで製作し、シールの貼り付け徹底啓発を行ったところ、ほとんどの方がシールを貼り付けてくれるようになりました。これにより、不審車両との区別を短時間で確認でき、早期対応が図れるようになりました。



バイク・自転車用シール



自動車用シール



### 13. 「AED」自動体外式除細動器の設置

グリーンシティにAED配備するとともに、AEDの訓練用トレーニングマシン3台、心肺蘇生法教育人体モデルを大人モデル2体、子どもモデル1体、乳児モデル1体も同時に導入しました。



AED保管庫

AED心肺蘇生法トレーニングセット保管庫



B・D・E棟1階エントランスに設置

#### 14. 「防災アイテム」各種防災資機材の整備

マグライト

電工ドラム

発電機（新ダイワEGR-24）

大容量発電機（ホンダ EM55is）

ステンレsgasolin缶

エンジンチェーンソー

エンジンカッター

大型ハンマー

片手ハンマー

バチヅル柄付

大型バール

綿ロープ

ハロゲン投光器

水中ポンプ小型

水中ポンプ大型

水中ポンプ汚泥水用

水中ポンプ用ホース

担架 2号型 4ツ折り（B型）

布担架

ホイッスル

難燃毛布

エマージェンシーブランケット

スコップ

シャベル

ツルハシ

餅つき用の杵と臼

ガスボンベ

大型コンロ

ヘルメット

長靴

一輪車

大型ブルーシート

大鍋

ずん胴鍋

その他 色々



## 15. 「防災倉庫」の設置

大災害を想定して、防災資機材を離れた4カ所で保管しています。



## 16. 「防災啓発シール」各戸玄関扉に災害時役割シールの貼付

全住戸に災害時における役割分担を意識づけるため、玄関ドアにシールを貼付し、大人から子どもまで自分の役割がわかりやすいようにかわいいシールにしました。

通報班

初期消火班

避難誘導班

上記、3班に大別しました。



玄関扉にシールを貼り付けました。



### 17. 「耐震化」地震対策として高置水槽を撤去しマンション上部の軽量化を図る

高置水槽を撤去し、建物上部の軽量化を図り、地震に強いマンションづくりを行いました。



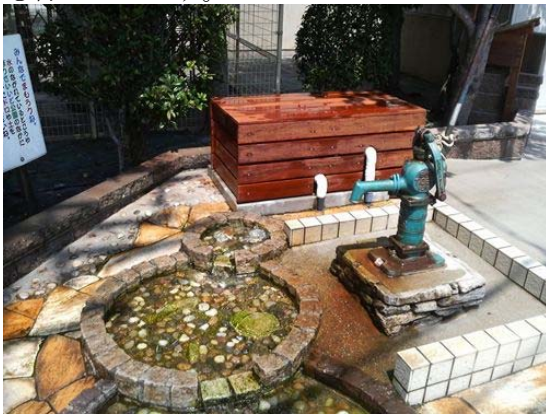
## 18. 「防災井戸」の設置で生活水の確保

災害によるライフラインの断絶、および非常トイレ等の対策として準備しました。

地震等による大災害はいつ起こるかわかりません。大災害時には、すべてのライフラインが停止する可能性が有り、その中でも断水は生活に非常に大きな影響を与えます。その為、生活用水の確保が不可欠となります。このような緊急事態に備え、非常時の「水」を確保する為にグリーンシティでは防災井戸を設置しました。また、子どもたちに「水の大切さ」を知ってもらうための小さな公園も同時に制作しました。今では珍しくなった手押しポンプや心やすまるせせらぎも設置しました。

「生きるための水」とは、飲み水や食物に含まれている水分であり、最低一人一日3ℓ以上が必要と言われています。災害が発生した場合、飲料水は周辺自治体からの給水活動や救助物資及び一般小売店でのペットボトル販売などで確保はできます。しかし、最近の災害事例から問題は、大量に必要な「生活水」と思われます。被災住民として生活していくために最低限必要な「生活水」は、どんなに少なく見積もっても、一人一日20ℓは必要です。その中で最も必要とされるのが、トイレの水と言われます。人間生きていくために、入浴は我慢できますが、排泄行為を我慢する事は不可能であり、現在のトイレはほとんどが水洗でその洗浄水は1回に10ℓが必要なのです。少量の水で流すとすぐに排水管が詰まってしまうのです。最近ではライフラインに壊滅的な被害をおよぼした新潟県中越地震に於いても、井戸にはほとんど被害が無く、生活に必要な「水」の確保ができたという報告があります。

グリーンシティ防災井戸の水は地下30ℓから汲み上げています。また、飲料水適応検査も行っています。



## 19. 「トリアージシステム」導入

大規模災害等における救急救命現場では、限られた医療スタッフと限られた医療機器・医薬品を最大限に活用することが求められます。そのためには、傷病者を緊急度・重傷度によって分類し、治療・搬送の優先順位を決める「トリアージ」という作業が必要です。

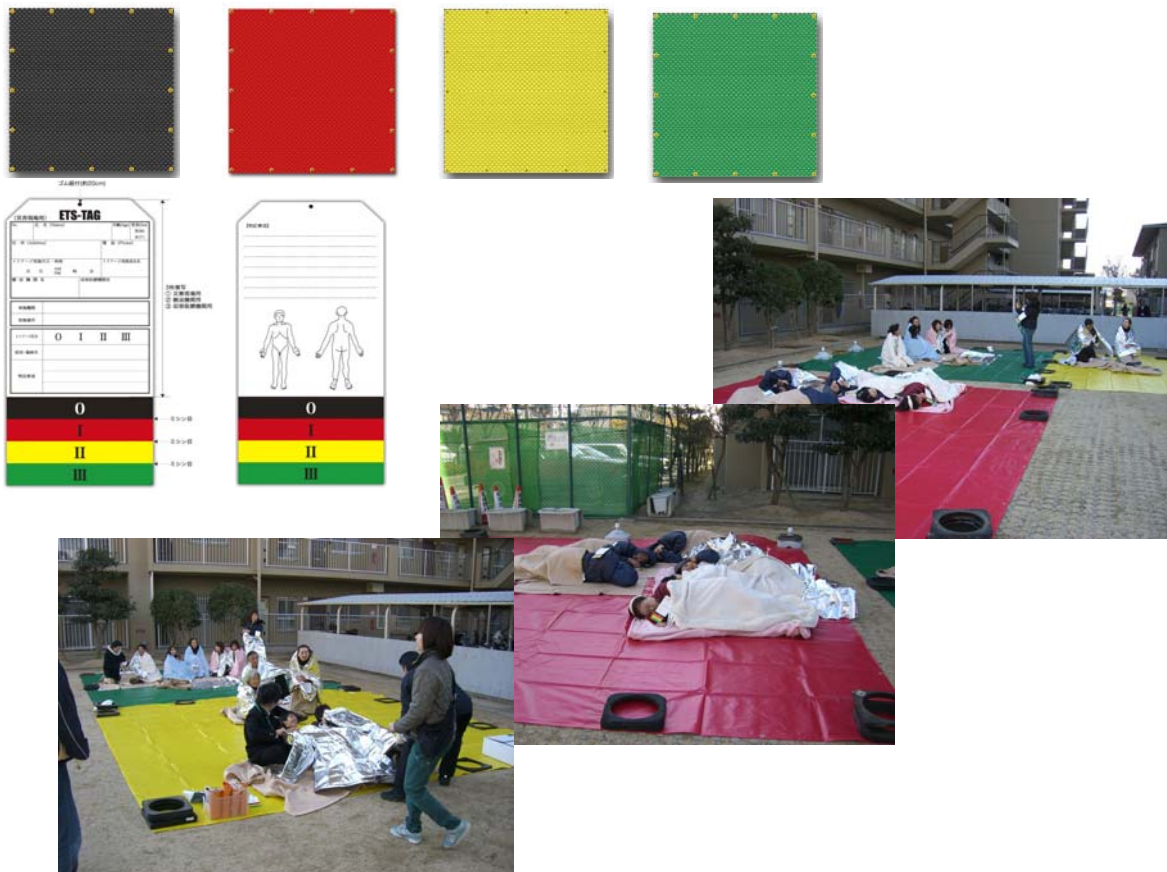
ETS-SYSTEM は、このトリアージ作業を迅速かつ的確に行うために開発された、トリアージ支援ツールです。災害や事故の現場で迅速・スムーズにトリアージ作業を行えるよう、ETS-TAG(トリアージ用タグ)と ETS-SHEET(トリアージ用シート)の2つがパッケージされています。

ETS-TAG を傷病者に付けることで、緊急度・重傷度別に色によって分類すると同時に、ETS-SHEET を利用して、その待機場所までも一目で識別でき、混乱した現場での迅速・正確な情報伝達と医療活動、的確な人員配置、効率的な治療・搬送を可能にします。

トリアージができるのか？

ここで問われるのは、トリアージができる人材がいるかどうかですが、私たちグリーンシティ防災会が考えるには、トリアージシートを使用することにより、一目でわかる医療場所、確実な救急救命スペースの確保と、トリアージタグによる住所・氏名・年齢・連絡先・そして収容先医療施設の情報収集などの、精度の高い情報を持つことが出来るということです。

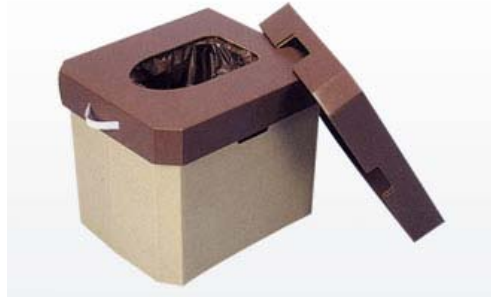
また、最低限傷病者のキズの位置や聞き取り作業などを書き込んでおけば、少しでも早い医療活動が可能になるのではという考えです。



## 20. 「組立式簡易トイレ」災害時配布及びエレベータ閉じ込め時対応トイレの配備

災害時の断水等でトイレが使用できなくなった場合、防災井戸からの給水活動で水を配布したりできるのですが、高齢者や障害者のみの家庭でどうしても防災井戸の給水待ちができない場合や取りに行くことが困難な場合。

また、災害などでエレベータが停止し、エレベータ管理会社が到着し救出に至るまでの緊急対応品として用意しました。



## 21. 「マンホールトイレ」災害時対応トイレの配備

災害時に各家庭のトイレが使用できなくなった場合に、各棟の下水用マンホールの上に設置し、下水用マンホール内に、汚物を直接廃棄する簡易設営タイプのトイレを配備しました。

マンホールトイレは、マンホールの直上に設置。水道・電気工事不要で設営できる洋式水洗タイプのマンホールトイレです。軽量なので設営場所への持ち運びが楽であり、タンクの水で汚物をその都度処理でき、マンホールに直結でき、臭いが漏れにくく清潔に使用できます。立ち座りをサポートする手すり付きで高齢者や障害者にも安心して使用していただけます。また、水道蛇口と直結することも可能なので、防災井戸からの水を引き込めば、簡易水洗化が可能です。



## 22. 「防災啓発システム」企業コラボでAED（自動体外式除細動器）を増設

コカコーラボトリングの自動販売機を3台設置することで、AED（自動体外式除細動器）3台と設置台を提供していただくことができました。これにより、合計4台のAEDを配備することができ更なる安全対策の向上ができました。



※何故、停電時でも使用可能な「災害救済ベンダー（災害対応自動販売機）」を選ばなかったかというのは、停電時において我々の持つ発電機で自販機を動かすことが可能であるため、通常のタイプを選択し自販機の売り上げでAEDの維持管理費を捻出することが可能となりました。「あなたの買う1本がAEDを維持管理でき、あなたの大切なひとの命を守ることができるのです。」

### 23. 「ネットランチャー」防犯対策（携行型拘束網展開装置）を配備

不審者防犯対策として「ネットランチャー」を配備しました。

ネットランチャーはスイッチを押すだけの簡単な操作で瞬時に網が飛び出し、侵入してきた不審者に絡まり動きを抑制します。その間に避難する等の時間を稼ぐことができます。

- 特 徴
- (1)小型・軽量で、簡単な操作で利用できる防犯機器
  - (2)スイッチを押すだけで、瞬時に網を放出・展開
  - (3)網は簡単に破くことができず、絡まりやすい構造
  - (4)使用者から約2～3.5m離れた不審者に網をかぶせることができる
  - (5)飛翔物は、網と、ゴム製の蓋と、ゴムコーティングされた錘で安全を考慮している
  - (6)カートリッジタイプを採用することにより繰返しの使用が可能
  - (7)作動と同時に異常を周囲に音で報知する



### 24. 「防犯灯」防犯対策用に増設・強化

防犯対策にマンションとしても「一戸一灯防犯運動」に参加できるよう防犯灯を大幅に増設し、通常自治体が設置するタイプより大型のものを導入した上、敷地内常夜灯である水銀灯の傘部分をすべて下向きに明るく照らすタイプへすべて交換し、バイク置き場なども常夜灯の蛍光灯も大幅に増設することで、薄暗くなる場所をすべてカバーしました。外周路の公道もより明るく安全になりました。



## 25. 「階段昇降機」 災害弱者用の昇降装置を配備

緊急時、少人数でも無理なく避難させることができる。

(導入への経緯)

各種訓練を行った結果、担架・布担架で上層階より人を昇降するのは大変な上、危険を伴い、最低でも1人に対して4人の人を必要としました。災害時に人の確保ができない可能性がある場合、少人数で安全に昇降できる装置を研究しました。

### ステアチェア

歩行困難な方の為に、介助者1名で安全に階段の昇降ができるバッテリー式階段昇降車



### スカラモービル

車いすに人を乗せたまま、階段の昇り降りができる電動階段昇降機

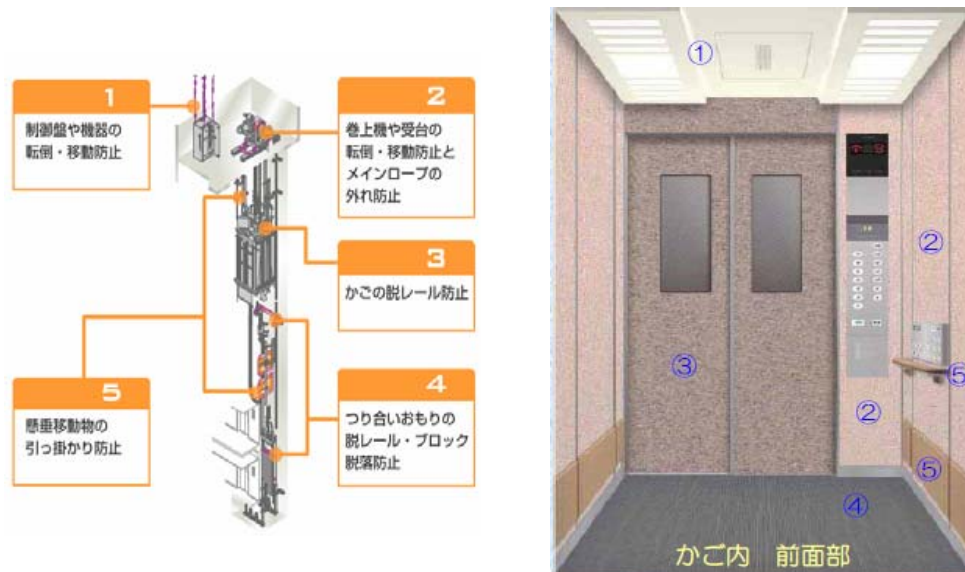


### キャリダン

介助者1名で廊下、階段を安全に素早く避難させることができる非常用階段避難車



## 26. 「エレベーター耐震化」による構造強化



グリーンシティのエレベータは新耐震基準（'81耐震）でした。

それを新耐震基準（'98耐震）を満たすエレベータとして『耐震補強』を施しました。

1. 機械室の梁や天井を利用して支持構造として補強
2. 主ロープが巻上機の溝から外れないガードを追加
3. かごのガイド装置がレールから外れないように補強板取付
4. レール類がずれたり、たわみが生じないように追加補強
5. おもりブロックが落下しないように固定
6. 昇降路内の突起物に引っ掛らないような保護処理

地震の被害を受けると、利用者の安全確保（避難の遅れ）や復旧のための時間や費用などの問題が発生すると考え、指針に基づいた「耐震構造強化」を施すことで、エレベータの被害が低減できると考えました。

階表示点字シールなどは、手作業で打刻製作し貼付しました。



## 27. 「防災ベンチ」災害時支援アイテムの設置



ボール・ジャッキ・ロープを内蔵したレスキューベンチ。

防災備蓄品の優先順位

- 1.命に関わるもの
- 2.ないと困るもの
- 3.あったら便利なもの

上記の3項目の中で一番にあげられる備蓄品を収納している。

普段は、お年寄りがデイケアなどの車を待つためのベンチとして親しまれています。

## 28. 「投げ消すサット 119 エコ」 消火薬剤を配備

火災が発生した場合に最も被害が少なく、確実に消火するポイントは「炎の勢いが小さい内に初期消火する」という事です。しかし一般に普及している噴射型消火器は「パニック状態になってしまい操作を間違えた」「重すぎて火元まで運べない」「炎の熱で近づけず、満足な初期消火ができない」など、特に高齢者や子供・身障者等「災害弱者」には扱いづらい物でした。「投げ消す SAT (サット) 119eco (エコ)」はそれらの問題点を克服し災害弱者でも迅速な初期消火を可能にしています。

- 小さく、軽いのでどなたでも素早く持ち運べる。
- 投げるだけなのでパニック状態でも使える。
- 消火能力が高い（避難路の確保にも効果的）。
- 人体・環境にも無害、また後始末も簡単。
  - ・発生するガスは人体に害のない程度の量を発生

### 消火剤のはたらき

火元近くに投げられたアンプルから消火液が飛び散ります。その際の水分蒸発作用によって燃焼物を冷やします。また、消火剤から発生するアンモニアガスが燃焼連鎖反応を抑制します。同時に、消火剤から発生する炭酸ガスが燃焼面への酸素を遮断します。そのほかに燃焼物の発火点を上げて燃えにくくする成分も配合されており、優れた再燃防止効果を発揮します。投げ消すサット 119 エコは（可燃物を取り去る）以外のすべての項目に対応しており、高い消火能力を発揮します。

### 投てき消火

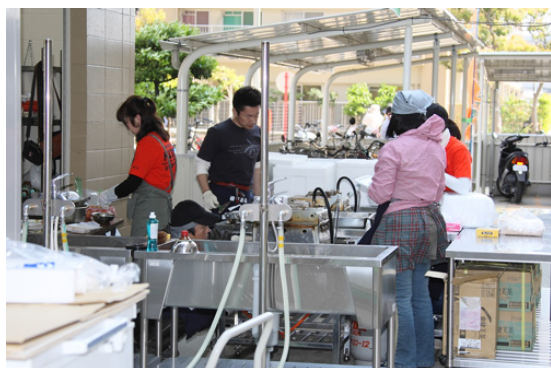
保護カバーから消火剤入りアンプルを取り出し、火元へ向かって投げつけて使用します。とっさの場合に誰でも使える方法です。アンプルが割れないと消火効果がないので、柔らかい布団などに当てず、火元近くの壁や床に当てる。

### 水割り消火

バケツ 1 杯の水にアンプル 1 本を混ぜることにより消火薬剤の量を増やす事ができる。柄杓などで火元に振り掛ける事で、野外の広範囲火災に対応できます。



## 29. 「炊き出し専用倉庫」の設置



いつでも、誰もが使用できる環境づくりの一環として炊き出し専用倉庫を設置しました。イカ焼き機はもちろんのこと、各種調理器具を用意しています。水栓は非常時シャワーとしても使用できるように工夫した設計です。

## あとがき

### ご近所付き合いの薄さがマンションの弱点

加古川グリーンシティは1995年の阪神淡路大震災を経験し、そのときクローズアップされた「マンションの災害対策」に徹底的に取り組んでいこうということから、1998年に現防災会組織としての活動が始まりました。マンションはプライバシーが守られる反面、ご近所付き合いの薄いのが最大の問題です。この問題をいかに解決し、どうすれば仲間を増やし、みんなが防災活動に取り組むことができるようになるか、それが最初の課題でした。

楽しくなければ防災の輪を広げるところか、人を集めることもできません。そこで、「楽しく防災活動をやろう」というテーマをそのままスローガンにし、多彩なアイデアを出し合いながら、住民の皆さんとともに楽しめるようなイベントを次々に開催してきました。それによって最初の壁を乗り越え、仲間づくりに大成功しました。

### 仲間づくりが私たちの防災戦略

「防災活動」は社会的に必要な活動であるとわかっていても、「防災」という固い漢字2文字から難しく考えすぎ、活動に一歩足を踏み入れにくく人が集まりにくいという難点があります。「防災」とは、人と人とのつながりがある「防」の「災」です。難しい顔で講演会を開き、「拝聴します」というような活動をして、おそらくそこからは何も生まれないのではないのでしょうか。現実に素晴らしい防災学や防災研究がありますが、それらがそのまま地域防災や自主防災には決してならないのです。なぜならば、防災の主役は我々一般市民だからです。その人たちの心根に強く訴えなければ何も変わらないし、何ものも生まれてこないのです。要するに、みんなが楽しく心の底からワクワクするようなものを提供する。そこから我々が追い求める地域コミュニティ、地域防災、自主防災力などが生まれ育っていくのです。

そこで私たちは「防災」という言葉を前面に出さず、堅苦しくならないように行事を行ない、参加者が「知らず知らずのうちに防災に関わってしまった」と感じるようにし、強いまちづくり、仲間づくりをすることに大成功しました。これが私たちの考える防災戦略です。

### 「楽しい防災活動」はグリーンシティの全員が無事であるために

私たちの活動の基本は、何があってもグリーンシティの住民全員が無事であってほしいということです。そのためには、すべての方に防災意識を持ってもらうことがポイントでした。そこで私たちは、「グリーンだより」（広報誌）、「グリーンネット」（マンション運営情報及び緊急情報伝達システム）、日立さんの「ニューメディアシステム」を基盤としたテレビの空きチャンネルを利用したコミュニティ放送、「命のライセンス」（災害発生時の行動指針を示した冊子）等を自分達で考え、ふだんから心得ておいてほしいこ

とや最新の情報、緊急の情報などを常に提供できる設備とシステムを構築しました。災害時に主として成人を対象とした「助けることができる人」、主に高齢者及び災害弱者を対象とした「助けてもらいたい人」の登録制度、「子どもたちとの合同の町内夜回り」、世代間交流を目的とした「もちつき大会」等、すべての世代が防災活動に参加できる行事を実践しています。私たちは「継続すること」が大きな力になると考えています。そのためには楽しくなければなりません。「楽しく防災活動をやろう」は私たちの基本であり、活動継続の秘訣であると思います。

### コミュニティそのものがライフライン

生きていくために一番必要で基本的なインフラ<水道・ガス・電気>をハード面のライフラインとするならば、コミュニティはまさにソフト面のライフラインといえるのでしょうか。防災を「防災」と語らずとも、防災の果たす役割を語ること、それが、加古川グリーンシティ防災会のコミュニティへの仕掛けです。コミュニティの中にはそれぞれの要求や希望があります。通常、それは衝突しがちですが、「楽しくやろう」を基本にコーディネートすると、そのエネルギーが大きな力に変わります。防災活動は継続が大事ですから、限られた人だけでなく、みんなの知恵や能力を生かせるシステムを作って楽しくやるのが大切だと思います。

### 究極の生活防災

私たちには自慢の『究極の生活防災』があります。何かというと「大阪名物！イカ焼き」を炊き出しマシンに選んだことです。防災用具として素晴らしい災害用炊き出し高速炊飯器がありますが、はたして普段の生活で使用することがあるのだろうか、また高速炊飯器で面白く楽しいことが生み出せるのだろうか？それより「イカ焼き機」ならみんなで楽しみながら炊き出し訓練ができます。粉もの好きの関西人「一家に一袋以上の小麦粉が絶対にある」だったら普段使う分と余分にもう一袋買い置きするだけで「備蓄」になるのです。それを災害時に持ち寄れば十分！また、「イカ焼き」は防災訓練だけに使うのではなく、「地域の夏まつり」「地域清掃」「年末もちつき大会」など色々な場面で出沒させます。すると自然に各家庭で「うちの家も小麦粉余分に買っておこう」と備蓄が始まるのです。その上、驚くことに100人分を炊き出すのと、100人前焼き終わるのがほとんど同時なのです。このように防災を生活の延長線上に置くことで、防災が苦にすることなく継続できるのです。継続できれば、「不意の災害に不断の用意」が自然と備わるのでしょ

最後に『防災って本当に楽しいものなのですね』

みなさんも是非したたかな仕掛けでワクワクするような防災を実行してみませんか？

### 「土手の花見」の精神を引き継ぎます

防災を「防災」と語らずとも、防災の果たす役割を語ること、それが、加古川グリーンシティ防災会のコミュニティへの仕掛けです。

今後も地域における「ひとづくり」、「ひとのつながり」をテーマに運営し、「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識を忘れず、地域のコミュニケーションを大切に、次世代への防災防犯体制の受け渡しをしていきたいと思っています

以上、加古川グリーンシティ防災会



